

平成27年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学大学院工学系研究科

評価委員会

平成28年11月

目 次

平成 27 年度教員個人評価について	1
1. 教員個人評価の実施状況	3
1.1. 対象教員数, 個人評価実施者数, 実施率など	3
1.2. 教員個人評価の実施概要	3
1.2.1. 評価組織	3
1.2.2. 実施経緯, 内容, 方法等	3
1.2.3. 添付資料	5
2. 工学系研究科, 理工学部教員ならびに職員 (教育研究支援職員及び事務系職員) が組織的に一丸となって行った教育研究活動等	6
3. 評価領域別の集計及び分析	7
3.1. 教育の領域	7
3.1.1. 講義担当等に関する事項	7
3.1.2. 教育改善に関する事項	9
3.1.3. 教育研修・FD に関する事項	14
3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項	16
3.1.5. 学生の受賞等	17
3.2. 研究の領域	19
3.2.1. 著書, 論文等の発表実績	19
3.2.2. 共同研究などに関する活動実績	21
3.2.3. 受賞等の実績	23
3.3. 国際・社会貢献の領域	24
3.3.1. 国際交流実績	24
3.3.2. 社会貢献実績	25
3.4. 組織運営の領域	28
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価	30
4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度	30
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム	32
4.3. 評価委員からのコメント	40

平成 28 年度工学系研究科評価委員会委員

平成 27 年度教員個人評価について

大学院工学系研究科における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書を基に、大学院工学系研究科評価委員会の下に置かれた大学院工学系研究科個人評価実施委員会において行うこととされ、本報告書は平成 27 年度分について評価を実施し、その結果を取りまとめたものです。

教員自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献、及び組織運営の 4 つの領域ごとの活動状況評価と総合評価を、それぞれ 5 段階の評価点を付与して教員が行います。そして、個人評価実施委員会は、教員の資質向上と諸活動の活性化、並びに本学及び本研究科と学部との目標達成に向けた活動という観点からそれら評価点の妥当性を点検しました。

各専攻・学科の詳細は後段に記述していますので、平成 27 年度の工学系研究科・理工学部 の取り組みについて、教育、研究、社会貢献の特色を以下に整理します。学生が記入するラーニング・ポートフォリオ (LP) に対するチューター教員の指導記録は個人面談の記録も含め着実に対応が浸透していますが、学年進行が進むにつれて学生の入力率が低下しています。学生の LP の意義に関する認識が 2 年、3 年次と低下していることが原因であり、卒業要件に関係する仕組みの導入等の強力な指導が必要と考えます。

学修意欲が高く優秀な学生の自主的組織である「STEPS」を通じた海外研修は、「文化の違いを理解しグローバルの意味」を海外の訪問先での交流を通じて考える機会を与えることを目的に実施しています。参加した学生は良い刺激を受け、意識が変わってきていることを報告会で感じます。平成 25 年の年度末に文部科学省の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択され開設した「環境・エネルギー科学グローバル教育プログラム」で本年 10 月に第 2 期生を受入れました。来年度に博士前期課程の第 1 期修了生を輩出することになります。また、本年度は学長特別経費による「大学院教育のグローバル化推進のための基盤強化」事業の最終年度で予算規模が縮小したため、大学院生海外短期派遣と学術交流協定締結のための海外調査、博士前期課程 1 年生の「工業英検」の受験等の事業を継続実施し、教育のグローバル化を強力に推し進めています。また、問題を抱える学生に対しては、早期の気づきを心掛け、佐賀大学保健管理センターと学生生活課のソーシャルワーカーと連携したアウトリーチケアを行っています。

また、教員が作成するティーチング・ポートフォリオ (TP, 簡易型も含む) についても研修会の開催により、年次計画に従って作成率が着実に向上していますが、本年度は目標である作成率 100% を達成しました。TP 作成は教育者側からの教育の質保証の基盤の一つであり、次段階の簡易版から標準版へのグレードアップが求められることとなります。

知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科および電気電子工学科の 4 学科は日本技術者教育認定機構 (JABEE) 認定 (継続認定も含む) を受けています。本年度は電気電子工学科が更新審査を受診しました。教育の質保証を担保する JABEE 認証において教員の労力が増加して来ていますが、外部評価であり国際性を有する認証です。工学系の

学科は全て受審する方向でいます。

研究に関しては、教員個人の取り組みを重視し、科学研究費助成事業への応募、採択の向上に努めています。科学研究費の採択率を上げるため事前査読の実施等の対策を採っていますが低迷しています。大学が URA の採用に動いていますが、採択実績は教員の研究者としての評価に繋がっていることを強く認識する必要があります。外部資金の獲得のために、各種の研究助成への応募を勧めると共に、研究科長経費に基づく工学系研究科の特色と強みをさらに高める研究プロジェクト（大学院生を含む）支援と若手教員への研究助成を続けています。その成果は学術論文などを通じて発表され、教員のみならず、大学院生の受賞にも繋がり教育的効果もあげています。共同研究、受託研究等の獲得も確実に実績をあげてきていますが、地元企業とのそれが殆んど無く、相談待ちの静から活動広報の動へ獲得姿勢を変える必要があります。

社会貢献については、佐賀県工業連合会（県工連）と連携した「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」を軸とした人材育成活動（インターンシップ、企業見学、大学研究室見学、企業トップ経営者によるキャリア講演会など）を行っています。本年度もアクティブ・ラーニングの一手法である PBL(Problem Based Learning)を県工連加盟企業の協力を得て機械システム工学科で実施しました。都市工学科では公共事業関連で公務員 OB の協力を得て引き続き開講しました。本年度後半には、COC+事業に採択されたことから佐賀地域を意識した種々の企画が始動しました。本格的な活動は来年度からとなる見込みです。また、国や地方自治体の各種委員会における学識委員や専門委員として多数の教員が参加し、地域の発展に寄与しています。

これらの取組みは、理工学部学士課程の教育の質保証、大学院工学系研究科における研究の実践による技術イノベーション創生、理工系人材の育成、地域貢献とグローバル化推進を象徴するものです。このような諸活動は工学系研究科の教員と職員、そして学生の皆様が設定した目標に向かって邁進する力に支えられています。今後も、継続した活動が教員個々に求められています。

平成 27 年度は第 2 期の最終年度に当たります。本報告書が公表される時点では第 2 期中期目標・中期計画期間の総括が終わり法人評価を受けていると思われれます。来年度から始まる第 3 期に向けた佐賀大学の改革が始まることとなります。理工学部と工学系研究科は「佐賀大学の改革プラン」の方向性に沿って組織改編に向けて動き始めています。本報告書を手にしておられる理工学部後援会、佐賀大学同窓会、佐賀大学校友会、卒業生、修了生をはじめとした工学系研究科・理工学部のステークホルダの皆様のご意見等は改革とその実行の原動力になります。教員は組織の一員であることを強く意識し、危機感を持ち不断の自己研鑽と社会的要請に対応できる組織再編を進めることが工学系研究科・理工学部の存続と発展に資するものと確信しています。皆様のご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

工学系研究科長・理工学部長
石橋 孝治

1. 教員個人評価の実施状況

1.1. 対象教員数，個人評価実施者数，実施率など

大学院工学系研究科（博士前期課程と博士後期課程）所属の教員（教授，准教授，講師，助教）に対して，別紙様式1～4に関して教員個人評価を実施し，下記表のとおり回答を得た（回答率 99.3%）。（平成 28.5.30 現在）

専攻	対象教員数	回答率(%)
数理科学専攻	11	100
物理科学専攻	13	92.3
知能情報システム学専攻	15	100
循環物質化学専攻	22	90.9
機械システム工学専攻	19	100
電気電子工学専攻	17	100
都市工学専攻	19	100
先端融合工学専攻	21	100
工学系研究科（合計）	137	97.8

1.2. 教員個人評価の実施概要

1.2.1. 評価組織

工学系研究科（理工学部）評価委員会ならびに工学系研究科（理工学部）個人評価実施委員会

1.2.2. 実施経緯，内容，方法等

① 平成 28 年 3 月 11 日

- 研究科長は，全教員に対し平成 27 年度活動の自己点検・評価を依頼し，別紙様式 1，3，4 を 3 月 18 日から 4 月 15 日までの間に提出を依頼した。

同時に，平成 28 年度の各様式もメールにて送付し，別紙様式 1（平成 28 年度活動の「個人目標申告書」）の作成・提出も併せて依頼した。

② 平成 28 年 3 月 28 日

- 研究科長から，全教員に対し，評価基礎情報データシステム入力について依頼した。

③ 平成 28 年 4 月 5 日

- 大学情報基礎データベースシステム全学管理責任者から，全教員に対し，「評

価基礎情報データベース」及び「研究業績データベース」へのデータ入力について依頼した。

- ④ 平成 28 年 4 月 13 日 研究科評価委員会開催
 - 平成 27 年度教員個人評価のスケジュールを決定した。
 - 平成 27 年度教員個人評価集計と分析報告書（様式）について決定した。
 - 工学系研究科個人評価用集計シート及び理工学部・工学系研究科個人業績集約方法の様式を決定した。
- ⑤ 平成 28 年 5 月 13 日
 - 「個人評価用集計シート」「個人評価用集計ツール」「個人業績集約の方法」を各専攻長に配布した。
- ⑥ 平成 28 年 5 月 13 日
 - 研究科長は、各教員から提出された平成 26 年度の各様式（1. 3. 4）を各専攻長に送付した。また、同時に「平成 26 年度教員個人評価（専攻）集計と分析報告書」の様式も送付し、同報告書の作成を依頼した。（USB メモリーを手渡した。）
- ⑦ 平成 28 年 5 月上旬から 5 月下旬
 - 各専攻長は、別紙様式 1、サーバーにアップロードされた評価基礎情報データシステム及び別紙様式 3 に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行い、評価結果を、別紙様式 4（平成 27 年度の「個人評価結果」）に記載の上、5 月末までに別紙様式 1・3 を含め、研究科長宛に送付することになった。
また、同時に、各専攻長は、平成 27 年度の個人評価結果について、各専攻の集計と分析を行い、その結果を、「平成 27 年度教員個人評価（専攻）集計と分析報告書」に記載し、研究科長へ提出した。（専攻長は、USB メモリーと印刷物（ペーパー）を研究科長へ手渡した。）
- ⑧ 平成 28 年 6 月初旬
 - 研究科長は、工学系研究科個人評価実施委員会に対し、個人評価結果の審査を付託した。
- ⑨ 平成 28 年 6 月中旬
 - 同委員会は、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、その結果を研究科長へ報告した。
- ⑩ 平成 28 年 7 月中旬～下旬
 - 研究科長は、別紙様式 1、サーバーにアップロードされた評価基礎情報データシステム及び別紙様式 3 「自己点検・評価書」に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、別紙様式 4（平成 27 年度「個人評価結果」）の評価内容を確認し、必要があれば評価結果の補足等及び研究科長コメントを記載することとなった。

- なお、研究科長は、審査にあたり、審査の公平性を確保するために、必要に応じ、他の職員から意見を求めることとなった。

また、研究科長は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取することになった。

⑪ 平成 28 年 10 月 27 日

- 研究科長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した別紙様式 4（平成 27 年度「個人評価結果」）を、当該教員に封書で通知した。その際、専攻毎の平成 27 年度教員個人評価集計と分析報告書を添付した。
- なお、各教員は個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後 2 週間以内に異議申立書（様式任意）を研究科長に提出することとなった。

⑫ 平成 28 年 11 月中旬

- 研究科版の平成 27 年教員個人評価集計・分析報告書（案）を取り纏めた。

⑬ 平成 28 年 11 月下旬

- 研究科長は、研究科版の教員個人評価集計・分析報告書を作成し、工学系研究科評価委員会に対し、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を付託する。

⑭ 平成 28 年 12 月 7 日

- 評価委員会は、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を行い、同報告書を承認し、その結果を研究科長に報告する。

⑮ 平成 28 年 12 月中旬

- 研究科長は、「教員個人評価集計・分析報告書」を添えて工学系研究科教員の個人評価結果を学長に報告する。

1.2.3. 添付資料

佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成 17 年 3 月 1 日制定）

佐賀大学大学院工学系研究科における教員の個人評価に関する実施基準

「大学院工学系研究科における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式 1）

教員報告書（別紙様式 2）：工学系研究科・理工学部教員活動実績年次報告書（推奨様式）に読み替え

自己点検・評価書（別紙様式 3）

個人評価結果（別紙様式 4）

2. 工学系研究科，理工学部教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となつて行つた教育研究活動等

はじめに，工学系研究科教員ならびに職員が組織的に一丸となつて行つた教育研究活動等を以下に示す．

- 学生の留年率，就職率，進学率の改善に対する取組み
- 工学系研究科国際パートナーシップ教育プログラム(平成16年度より)：相手国：中国，韓国，ベトナム，インドネシアなど
 - ▶ 数理学専攻，物理学専攻，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻の教員が参画
- 環境・エネルギー科学グローバルプログラム（PPGA）（2013年10月より）
 - ▶ 外国人留学生と日本人学生が共学し，世界的な環境とエネルギー問題の解決に関する講義などの教育カリキュラムを全て英語で実施するプログラムである．
 - ▶ 前期課程プログラムは，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻の教員が，また博士後期課程プログラムは，システム創成科学専攻の化学，機械，電気電子，都市，先端融合分野の教員が参画
- 大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)：
 - ▶ 佐賀大学大学院工学系研究科博士後期課程の教育プログラムで，学術交流協定に基づいて実施されている国際共同研究や国際共同教育を強化し，佐賀大学特有の実質的な国際活動を発展させるために，佐賀大学独自に奨学金制度（佐賀大学奨学金留学制度）を設け，アジア諸国から外国人留学生を博士後期課程に受入れるものである．工学系研究科博士後期課程の教員が参画
- 佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成13年度より）：
 - ▶ 佐賀大学の交流協定校に所属する学生を対象とした短期留学プログラムで，日本語コース（SPACE-J：学部生および修士課程の院生が対象）と，英語コース（SPACE-E：学部生のみが対象）がある．佐賀大学での学習や研究，また日本人学生や地域の人々とのふれあひを通じて，日本社会についての知識や理解を深める．学生の受け入れや講義を担当
- 高等学校ジョイントセミナー，出張講義等
- 環境美化エコ活動
 - ▶ 省エネルギー活動：夏季ピーク電力の抑制策：7月，8月期ならびに12月，1月期の空調断続運転
 - ▶ 定期的なキャンパス環境美化デーにおける一斉清掃

3. 評価領域別の集計及び分析

3.1. 教育の領域

3.1.1. 講義担当等に関する事項

表 3.1 に教員の担当科目数（学部，修士），担当コマ数（半期当り換算），卒業研究指導学生数，修士特別研究指導学生数，博士研究指導学生数（主指導）の平均値を表している。

表 3.1 教員 1 人当たりの講義担当，指導学生数

専攻	職種	学部 (教養教育科目を含む)			大学院			
		担当科目数/教員	担当コマ数	卒研学生指導数	担当科目数/教員	担当コマ数	修士学生指導数	博士学生指導数
数理科学専攻	教授	4.20	4.20	3.20	4.00	3.33	3.00	0.40
	准教授(含講師)	4.00	4.00	2.00	1.83	1.83	0.83	0.00
物理科学専攻	教授	6.29	6.93	3.00	3.14	4.00	3.14	0.57
	准教授	5.20	6.20	3.00	2.80	3.28	1.60	0.20
知能情報システム学専攻	教授	6.50	5.12	4.33	1.67	2.00	2.67	0.67
	准教授(含講師)	5.29	4.06	3.57	1.14	1.14	1.86	0.14
	助教	2.00	2.78	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
循環物質化学専攻	教授	8.10	7.55	3.30	5.30	4.10	3.40	0.90
	准教授	6.40	6.80	3.80	4.60	3.60	4.00	0.20
	助教	4.33	4.50	1.83	0.33	0.33	0.17	0.00
機械システム工学専攻	教授	3.71	4.21	3.43	2.57	2.52	4.00	1.14
	准教授(含講師)	4.01	4.28	2.90	1.10	0.84	1.70	0.00
	助教	2.00	2.50	1.50	0.00	0.00	0.00	0.00
電気電子工学専攻	教授	3.14	5.89	4.57	4.86	6.55	5.21	0.71
	准教授(含講師)	5.00	7.94	3.57	4.86	4.10	2.43	0.00
	助教	2.67	4.33	1.67	0.00	0.00	0.00	0.00
都市工学専攻	教授	6.50	5.60	4.10	2.80	2.24	3.00	1.10
	准教授(含講師)	5.13	5.06	3.33	2.22	2.11	2.44	0.00
	助教	3.00	4.00	0.67	0.33	0.17	0.00	0.00
先端融合工学専攻	教授	4.85	3.88	3.40	5.83	5.41	3.40	1.25
	准教授	4.88	6.16	3.13	5.00	3.23	2.88	0.25
	助教	2.00	2.73	1.33	0.0	0.0	0.0	0.0

受講生数は教務システムに登録された履修者数
 授業担当コマ数は，半期当りに換算する。（通年 1 コマの科目は 2 コマとする。） 1 科目を複数教員で担当する場合は，実働時間とする。

【数理科学専攻】

- 教授と准教授は概ね同数の授業科目を担当しているが、卒業研究や修士課程の主任指導に関しては教授のほうが多い。

【物理科学専攻】

- 教授は、准教授よりも多くの科目を担当している。
- 役職者については、負担の軽減をはかる措置を講じているが、実際はあまり軽減されていない。

【知能情報システム学専攻】

- 教授は准教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導している。また、副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。
- 助教は演習や実験の指導を担当している。
- 本専攻では、平成25年度及び26年度中に4名の教授が定年退職が発生し、今年度は補充人事が完了していないため、教員間の教育負担の隔たりは解消されていないのが現状である。

【循環物質化学専攻】

- 教授、准教授ともに、学士課程と博士前期課程をあわせて年間10科目以上、コマ数でも同程度を担当している。特に、学生実験科目も担当しているので、授業のエフォートは大きいと考えられる。助教は、教授や准教授に比べると授業科目の担当数が少ないが、主に実験及び演習科目の指導を担当するとともに、主要授業科目以外の科目を担当している。
- 研究指導に関しては、准教授の方が教授よりも多くの学生を指導している。ただし、その差は少なく、また、年度によって異なるので、教授と准教授が同数程度の学生を指導していると見なすことが妥当であろう。助教は、4年次卒業研究着手時の配属学生数が教授や准教授よりも少ないので、学士課程、博士前期課程ともに指導学生数ない。さらに、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習や生活相談など）を行っていることが報告されている。博士後期課程に関しては、主旨導の有資格者の多くは教授であるので、教授が主に博士後期課程学生を指導している。また、副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。

【機械システム工学専攻】

- 担当科目数について、教授と准教授・講師の数値はほぼ同じである。准教授・講師の数値が若干高いのは、実験や演習など複数教員で同時に担当する科目を担当していることによると考えられる。
- 助教は機械工学実験Ⅰ、機械工学実験Ⅱ、大学入門科目（創造工学入門）などで実験や演習の指導を担当している。

【電気電子工学専攻】

- 一部の准教授・講師は教授よりも多くの科目を担当している。准教授・講師の平均

担当科目数は教授よりも多いが、担当コマ数としてはほぼ同等である。

- 一部の准教授は、博士後期課程の副指導教員として教授とともに指導にあたっている。
- 助教は主に実験指導を担当しているが、年間を通じて1コマ程度の学部講義も担当している。実験を指導する学生数は平均90人で前期後期を通じて4コマ（前後期3, 4校時）を担当している。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学修に関わる生活相談など）やチューター担当を行っていることが報告されている。

【都市工学専攻】

- 教授も准教授も、全体的に多くの科目、学生の教育を担当している。助教は主に実験指導を担当しているが、座学としての講義を教授・准教授とともにやっている教員もいる。
- 3名の教授が博士後期課程の主任指導の有資格者として博士学生を指導している。また、12名の教授・准教授が副指導を行っている。また、留学生も多く受け入れている。
- 14名の教授・准教授が博士前期課程の主任指導の有資格者として修士学生を指導している。また、留学生も多く受け入れている。
- 指導する学生数は、卒業研究（講師以上）で平均3.7人、修士指導（講師以上）で平均2.7人、博士主任指導（教授）で平均1.1人である。担当する授業コマ数は、学部で年間平均5.2コマ、大学院（講師以上）で年間平均2.2コマである。また、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習に関わる生活相談など）も行っていることが報告されている。

【先端融合工学専攻】

- 教授については、学部の授業担当科目数（平均）は4.85、卒業研究指導学生数（平均）は3.40、大学院の授業担当科目数（平均）は5.83、修士指導学生数（平均）は3.40、博士主任指導学生数（平均）は1.25である。
- 准教授については、学部の授業担当科目数（平均）は4.88、卒業研究指導学生数（平均）は3.13、大学院の授業担当科目数（平均）は5.00、修士指導学生数（平均）は2.88、博士主任指導学生数は0.25である。
- 助教は主に学部の実験指導を担当している。この他、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習および生活に関わる相談等）を行っている。

3.1.2. 教育改善に関する事項

教育改善に関し、工学系研究科各専攻の教員は、次のような取り組み、実践を行っている。

【数理科学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- チューター面談のほか、オフィスアワー以外にも学生からの相談を受けた。（准教授）
- 担当科目について学生による授業評価アンケート等を用いた教育評価・分析を行っ

- た。（准教授）
- 3/4-6 に 2 泊 3 日で、標準版ティーチングポートフォリオ作成ワークショップに参加した。（准教授）
 - 講義に関する質問が多くあったため、それに対応した。また自身が学生時代に一般企業の就職活動を行っていたため、それを踏まえて卒業研究生の就職活動に関して助言した。（講師）
 - 講義に関する理解度を確認するため、定期的にレポートや試験を実施した。（准教授）
 - 学生と積極的にコミュニケーションをとり学生からの相談に応じた。また、4 年生に対しては進路指導も行った。（准教授）
 - 博士課程後期の学生に対して、査読付きの国内総合誌に論文を掲載させた。（教授）
 - 大学院講義においては、学生の反応を見ながら臨機応変に対応しながら講義を進めた。また、セミナーにおいては、時間割にあまり縛られることなく学生の準備に応じて随時対応した。（教授）
 - オフィスアワーの設定時間以外にも、講義終了後や、研究室において質問や相談に応じた。特に、卒業研究においては随時相談に乗り、学習方法やプレゼンの方法等について指導した。（教授）
 - 自分がチュータを務める留年生 3 名に対してラーニングポートフォリオを活用し、修学状況を分析し、必要な学生には適宜アドバイスを行った。内 1 名の学生に対しては教職チュータとして所見記入などの業務も行った。（教授）
 - 大学院前期課程「確率数学特論 I」において、損保数理を主題とする講義を行った。これとの関連で、履修者に日本アクチュアリー会のアクチュアリー資格試験受験を促し、実際に M1 生 1 名が受験した。不合格ではあったものの、1 年後の受験も期待される。（教授）
 - 指導教員を務めている博士前期課程 2 年生 1 名は、アクチュアリー関係の就職先を希望していることから、研究テーマも生保数理に関するものとして修士論文を書かせ、修士の学位を授与されるに至った。（教授）
 - 5 月に培風館から、「ステップアップ微分積分学」を出版した。（准教授）

【物理科学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- LMS を活用している。（教授）
- テキストなど教材を作成し、学生に提供している。（教授）
- グループ学習を取り入れている。（教授）
- シラバスに自習課題を記載している。さらに、原則として毎回演習を行い、答案を回収、採点、返却し、解答例を配布している。（教授）

【知能情報システム学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 講義はすべて録画して、ストリーミング配信した。（教授）

- 講義に関する資料や成績情報をホームページ上でユーザ毎に確認できるようにし復習環境を整え、成績不振者には毎週宿題を提出させるようにした。（教授）
- 授業内で演習を行い、全学生に対して全問ができるまで指導した。（教授）
- 毎週、具体的に予習宿題を出し、その内容に関する小テストを行った。（教授）
- TBL 型の講義にし、グループワーク形式で課題に取り組みせ、学生に発表させた後に教員が解説することにより、その場で理解が深まるような配慮をした。（教授）
- 小テスト・確認テストの成績が悪い学生には、第 6 回以降、宿題を提出させるようにし、分からないところは学習アドバイザに質問するよう促した。（教授）
- 再試験を実施する前には、自習を課し、再試験も 4 回に分けて実施した。（教授）
- 大学院の科目において、学部における科目の復習として、十分な数の例題を示すとともに、プログラミングスキル向上のために、課題を与えた。（教授）
- 知能情報システム学科独自開発の修学指導支援&教務成績判定システムに対し、機能拡張（顔写真表示機能の実装など）やシステム改良を行い、より使いやすいものにした。（教授）
- スライドと板書の併用を行い、両者の特徴を生かす授業の工夫を継続して実践した。（准教授）
- Moodle を用いて講義 HP を運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価結果のフィードバック等を行った。（准教授）
- Wiki を活用してチームでの資料作成および相互レビューを実施した。（准教授）
- Moodle 版大福帳を活用して、毎回の授業で学生の意見・コメントを収集し、それに回答することでコミュニケーション促進を図った。（准教授）
- 卒業研究のための Moodle コースを設定し、各種の成果物提出、教育コンテンツの提示などに活用した。（准教授）
- Moodle 版ゼミ用大福帳を運用して、学生相互間のディスカッションの可視化および蓄積・整理を推進した。（准教授）
- 大学院生に対して、年 2 回の学会発表を義務付け、計画的な研究指導を行った。その結果、大学院生の研究成果が査読付きの国際会議に採録された。（准教授）

【循環物質化学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 講義内容を確実に理解し定着させるために、講義の後に演習を行い理解力の向上に努めた。成績分布は二極化したものの全体的な理解力は昨年よりも向上した。（教授）
- PowerPoint を使った課題問題に対する解答と中間・期末試験の答案返却にともなう解答の解説を行った。（教授）
- PowerPoint の内容を受講生が理解しやすいように一部改訂した。（教授）
- 研究成果の概要を講義で解説した。（教授）
- 前年度の内容と方法の問題点等について見直しを図った上で、単にやるべきことを指示するのではなく、受講生が自発的に考え、取り組めるように誘導することを心掛ける

と共に、これを実践した。（准教授）

- 正規の授業時間を確保すると共に適宜予習や復習のための課題を与えることにより定められた学習保証時間を実現した上で、レポートや試験に基づき厳格に評価した。（准教授）
- 単にやるべきことを指示するのではなく、受講生が自発的に考え、取り組めるように誘導することを心掛けると共に、これを実践した。（准教授）

【機械システム工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- シラバスを公開して、授業計画を周知するとともに、科目と学習教育目標との対応関係を示した。
- JABEE の基準をベースとして担当した科目の授業を行い、その結果をFDレポートにまとめて報告した。
- 昨年度の授業評価アンケート等で得られた改善内容を、本年度の講義にフィードバックするよう努めた。
- Web 上に講義ノート、演習課題の模範解答を公開し、予習復習ができるようにした。
- TA の活用により授業時間中に理解不足の学生に対する個別のフォローに努めている。
- 中間試験を実施し、自主学習を促進させている。
- 演習レポートにできるだけ詳細な添削を実施している。
- 演習レポートを毎回提出させることで、学習の習熟度を上げて行った。
- プレゼンテーションアプリケーションを効果的に使用するなど、学生の理解を深めるよう講義を工夫した。
- 基礎的学問の内容が、社会（特に工学分野）で実際にどのように役立つかを意識づけるよう心掛けた。
- レポート課題について、学生間でコピーが多数なされていたが、今年度より課題のバリエーションを増やし、学生個人に考えさせるようにした。
- 不合格者に対して面談を行ない、理解できていない点を指摘し、定期試験解答例を配布した。
- 学生に達成度評価をフィードバックすることで、学生の学習意欲の向上に努めた。
- オフィスアワーを設け、学生からの学習・進路等の相談に応じた。
- 企業における問題に対して対策を自ら考え、提案を行い、ものづくりを学び、機械工学の関心を高め、就業と地域企業への理解を深められるようになるために、地域連携実践キャリア教育を実施した。
- 卒業研究で配属された学生を対象に勉強会を開いて専門教育の充実を図った。
- 博士後期課程の学生を受け入れ、博士学生定員を充足するように努力した。

【電気電子工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 講義資料の内容および演習問題を見直した。（教授）
- パワー素子・工業製品・電力素子の実物を用いて解説した。（教授）
- 授業参観を受け入れた。（教授）
- 相互に授業参観することで、授業の改善を図る。（教授）
- 他教員の授業参観を受け、授業の状況等に関するコメントをしてもらった。（准教授）
- 日頃、教員それぞれが工夫をして授業改善に努めているが、果して、それらが学生の教育に生かされているのか、独りよがりになっていないかなどはなかなか解りづらいものがある。そこで、同僚である教員の授業を参観して学生の反応を自分の目で観察し、自分の授業と比較することで、自分の授業の長所と改善点を明確にするものである。（講師）
- 板書とプロジェクトを併用して講義を行うことで理解度の向上に努めた。また使用するスライドは毎回印刷し配布することで自主学習の促進を目指した。（教授）
- 昨年の試験問題を **LiveCampus** にアップロードし、自学自習に資するよう指導した。（教授）
- PPGA 学生の履修により英語での講義となったので、講義で使用するスライドを毎回印刷し配布することで、理解度の向上と自主学習の促進を目指した。（教授）
- PPGA 科目として実施した。授業は英語で行うとともに、スライドは日本語・英語の2種類を作成し、日本人学生への配慮を行った。（教授）
- ほぼ毎回演習問題を課し、授業時間中に終わらなかったものについては宿題として取り組ませた。（教授）
- 指導している修士学生4名に、応用物理学会全国大会1件、応用物理学会研究会1件、電気学会九州支部2件の発表をさせた。（教授）
- 昨年度より、化学での受験を認めており、化学受験者の成績動向を見守る必要があるため、高校での理科の履修状況、受験勉強の状況、センター試験・個別試験の受験科目について調査し、学科内で情報共有を行った。（教授）

【都市工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 講義プリントを随時ホームページで公開（教授）
- 演習科目で毎週レポートのチェックおよび評価（教授、助教）
- 受講生に対し講義ごとに質問・意見を提出させ次回講義で回答、解説（教授、准教授）
- 講義における学生の発言を促す工夫、例えば（准教授）
- 大学院生には学外での研究発表を義務化、発表の事例（教授、准教授）
- IT ツールを使用しオンラインによる出席管理、小テストを行う講義の実践（教授）
- アンケートや出席カードを用いて学生からの意見や質問を受け付け、それを参考材料とした授業改善（准教授）
- 修士学生、卒研生に外部のコンペティションに応募するように指導（教授）

- Live Campus 上に毎週講義後にアンケートを設定し、授業内容に関して学生とのインタラクションでの対話を行う。（准教授）
- 小テストやe-ラーニングの活用した授業（准教授）

【先端融合工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 専門科目に関する最新のトピックスや企業で実際に用いられる応用例を多数紹介し、学生の興味を引くよう努力した。（教授）
- eラーニングシステムを用いた自己学習を実施した。（教授）
- 小テストや演習問題を実施して習得状況を把握し、習得状況に応じてその解説および演習問題を実施した。（教授、准教授）
- 科目を受講すると、どのような資格取得へ結びつくのか、具体的に提示した。（教授）
- 講義や実験の資料を印刷やPDFで配布した。（教授、准教授、助教）
- 英語での授業を行った。（教授、准教授）

3.1.3. 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FDについて、工学系研究科各専攻の教員は専攻内でのFD活動の他、次の活動を行っている。

【数理学専攻】

- 工学系研究科FD報告会（教授、准教授）
- 標準版ティーチングポートフォリオの作成（准教授）
- 工業系高等学校との進学懇談会（教授）
- 高等学校数学教員との交流会（教授）
- 数学研究交流会（教授）

【物理科学専攻】

- 全員が（簡易版）ティーチングポートフォリオを作成した。
- 工学系研究科・理工学部FD講演会に参加した。（教授、准教授）
- 授業改善や実質化の取り組みとしては、
- e-LearningのLMSを利用し、毎週演習問題を出題し、回答状況を確認しながら、全員が回答するように指導した。（教授）
- 演習問題を収録した自作のテキストを公開し、学生が予習・復習をできるようにしている。（教授）
- 授業時間外学習ができるよう自作テキストをホームページで公開した。また担当を決めてテキストの内容を発表させた。（教授）
- 講義初回にアンケートで学生の知識や希望を調査し、講義内容に反映させた。（准教授）

以上のように、各教員が、授業科目の特性に合わせて、教育方法や教材などを工夫していることがわかる。

【知能情報システム学専攻】

- 工学系研究科 FD 報告会への参加（教授，准教授）
- 「情報処理教育の現状」への参加（教授）
- JABEE シンポジウムへの参加（准教授）

【循環物質化学専攻】

専攻内での教育プログラム委員会及び教育FD委員会による，授業改善について議論や教員個人のFD活動の他，

- 工学系研究科 FD 報告会（教授，准教授）
- 安全貿易保障講演会（教授）
- 大学改革シンポジウム（教授）
- 九州大学教育改革研究会（教授）
- 『山口大学における知財教育』に関するFD講演会（教授）
- FD・SD フォーラム（准教授）

への参加が報告されていた。

【機械システム工学専攻】

- 工学系研究科 FD 講演会への参加
- 地域連携実践キャリア教育において，地域企業の方の講演を聴講することで，地域への理解を深めた。

【電気電子工学専攻】

- 工学系研究科 FD 報告会（教授，准教授・講師）
- 男女共同参画ミニ講演会（教授）
- 職員研修会（教授）
- AED 講習会（准教授）
- 平成 27 年度佐賀大学学長招待講演会（准教授）
- 工学系数学統一試験に関する特別講演会（准教授）
- 公正な研究活動の推進に関する講演会（准教授）
- Office365 ポータルの利活用説明会（准教授）
- 佐賀大学 FD・SD 研修会（准教授）
- 教職員用メール移行説明会（准教授）
- 大学職員向けゲートキーパー養成講座（准教授）
- FD 講演会「佐賀大学における障害学習支援の現状と課題」（准教授）
- マイナンバー制度セミナー（准教授）
- 非常勤教職員用メール移行説明会（准教授）
- キャリアセンター報告会（准教授）
- 情報セキュリティ講習会（准教授）
- 学長主催 IR セミナー（准教授）
- 国際交流推進センター・キャリアセンター共催セミナー（准教授）

- ・ 8 大学連携事業(文部科学省大学間連携共同教育推進事業)主催 FD・SD セミナー(准教授)
- ・ 知財教育に関する FD 講演会 (准教授)

【都市工学専攻】

FD・SD 研修会等に参加 (助教)

- ・ コミュニティ・キャンパス佐賀 FD・SD 研修会に参加 (准教授)
- ・ 第 29 回佐賀大学本庄地区ティーチング・ポートフォリオ・ミニワークに参加し (准教授)

【先端融合工学専攻】

- ・ 工学系研究科 FD 講演会への参加 (教授, 准教授)
- ・ TP ワークショップへの参加 (教授, 准教授)

3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置と学生の訪問については、工学系研究科内の全ての教員が行っている。専攻ごとの相談内容については、以下のとおりである。

【数理科学専攻】

- ・ 相談内容は学習方法や将来の進路に関するものが多い。(教授, 准教授)

【物理科学専攻】

- ・ 悩みを抱える学生の情報を教員間で共有し、できるだけ学生と面接するなど、留年率を下げるための努力を学科全体で取り組んでいる。
- ・ 就職関係で不明者が出ないように努力した。

【知能情報システム学専攻】

- ・ 相談内容は研究や授業内容への質問や相談、履修に関することや進路に関する相談が多い。(教授, 准教授)

【循環物質化学専攻】

- ・ オフィスアワーは全教員が設定しており、学生の訪問に対応している。
- ・ オフィスアワー以外の時間においても、教員は学生の訪問・相談に適宜対応している。
- ・ 学生からのメールによる相談についても対応している。
- ・ 毎学期毎に全学生に対し、ラーニング・ポートフォリオを活用したチューター面談を実施している。
- ・ 学生の訪問・相談は、専攻主任や教務委員、教育プログラム委員長、就職担当教員などに対するものが多い。
- ・ 相談内容は、授業に関する質問が最も多く、その他履修上の相談や就職に関する相談・報告、進路等の相談など多岐にわたる。

【機械システム工学専攻】

- ・ 相談内容は学修相談と就職・進路相談が各々全体の半数ずつで、それ以外には生活

相談を実施している。

【電気電子工学専攻】

- 各教員ともオフィスアワーを設定しているが、オフィスアワー以外についても多くの教員が時間を割いて対応している。（全教員）
- 相談内容は学修相談や進路に関するものが多い。（全教員）
- 卒研究生、大学院生については、指導教員が相談担当の役割を果たしている。

【都市工学専攻】

- 相談内容は学習・成績や就職に関するものが多い。（教授、准教授）
- メールによる随時相談も受け付けている教員も多く、留学生からの日常生活や進路などの相談も応じた。

【先端融合工学専攻】

- オフィスアワー以外の面談が多いが、適切に対応している。電子メールによる相談にも対応している。内容は教務事項および就職相談が多い。

3.1.5. 学生の受賞等

【知能情報システム学専攻】

- 第 68 回電気・情報関係学会九州支部連合大会奨励賞（指導教員：准教授）
- 平成 27 年度第 4 回（通算第 32 回）IOT 研究会 優秀学生賞（指導教員：准教授）

【循環物質化学専攻】

- 第 15 回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト優秀賞（指導教員：准教授）
- 第 6 回佐賀大学—遼寧大学ジョイントセミナーPoster Award（指導教員：教授、准教授）
- 第 10 回大邱大学—佐賀大学ジョイントセミナーPoster Award（指導教員：教授、准教授）
- 未来を拓く若手研究者討論会ベストプレゼンテーションアワード（指導教員：准教授）
- 第 7 回国際シンポジウム Best Poster Award（指導教員：教授）

【機械システム工学専攻】

- 日本機械学会 畠山賞
- 日本機械学会 三浦賞
- 日本設計工学会 武藤栄次賞
- 第 34 回計測自動制御学会九州支部学術講演会学生発表交流会 最優秀発表賞
- 日本機械学会 九州学生会第 47 回学生員卒業研究発表講演会優秀講演賞

【電気電子工学専攻】

- 電子情報通信学会九州支部長表彰「学生会講演奨励賞」（指導教員：准教授）
- 平成 27 年度電気学会電子・情報システム部門大会 Student session Outstanding Student Presentation Award（指導教員：准教授）
- 2015 年度学生マイクロ波回路設計試作コンテスト 低損失部門 特別賞（指導教

員：教授)

- 映像情報メディア学会放送技術研究会学生発表部門 最優秀賞 (指導教員：教授)
- 映像情報メディア学会放送技術研究会学生発表部門 優秀賞 (指導教員：教授)
- 2015 年 IEEE 福岡支部発表奨励賞 (第 5 回) (指導教員：教授)
- 電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ優秀学生修了表彰 (指導教員：教授)
- 電子情報通信学会九州支部学術奨励賞 (指導教員：教授)

【都市工学専攻】

- 国際会議”IConCEES 2015” Best Paper Award 院生
- 11 回『新・木造の家』設計コンペ 林野庁長官賞 院生 4 名のグループ
- 2015 年度学生表彰学長賞 院生 4 名のグループ
- 2015 年度学生表彰佐賀大学同窓会長賞表彰 まちの間 3 号「佐賀よかこの家」学部生 6 名のグループ
- 日本建築学会九州支部 2015 年度建築九州賞「研究新人賞」 院生
- 平成 27 年度土木学会西部支部研究発表会優秀講演賞 院生 11 名
- 平成 27 年度日本コンクリート工学会九州支部長賞 院生
- 平成 27 年度都市住宅学会九州支部優秀学生賞 学部生
- 平成 27 年度空気調和・衛生工学会九州支部長賞 院生
- 空気調和・衛生工学会第 28 回振興賞学生賞 学部生
- 平成 27 年度日本都市計画学会九州支部長賞 学部生
- 平成 27 年度日本建築学会九州支部長賞 学部生
- 平成 27 年度地盤工学会九州支部優良学生賞 学部生
- 平成 27 年度日本建築学会設計競技九州支部入選 院生
- 学内の賞 平成 27 年度修士論文審査会優秀発表賞 院生 5 名
卒業論文審査会優秀発表賞 学部生 12 名
卒業制作丹羽賞 学部生 1 名

【先端融合工学専攻】

- 平成 27 年優秀論文発表賞 (指導教員：准教授)
- Best Presentation Award (若手プレゼンテーション賞) (指導教員：准教授)
- 日本機械学会 三浦賞 (指導教員：教授)

3.2. 研究の領域

3.2.1. 著書，論文等の発表実績

過去5年間（H23.4.1～H28.3.31）の発著書，論文等の発表実績を表3.2に示す。

表3.2 過去5年間（H23.4.1～H28.3.31）の発著書，論文等の発表実績平均値

専攻	職種	著書	論文総数		和文原著		英文原著	
				査読付		査読付		査読付
数理科学専攻	教授	0.00	11.80	10.40	1.40	0.20	10.40	10.20
	准教授 (含講師)	0.17	3.17	3.17	0.00	0.00	2.67	2.67
物理科学専攻	教授	0.14	9.29	8.71	0.14	0.00	9.14	8.71
	准教授	0.00	16.20	16.00	0.00	0.00	16.20	16.00
知能情報 システム学専攻	教授	1.67	13.67	12.67	3.50	2.50	10.17	10.17
	准教授 (含講師)	0.57	36.43	13.71	18.00	1.71	13.43	12.00
	助教	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
循環物質化学 専攻	教授	0.80	18.50	18.20	0.60	0.50	17.90	17.70
	准教授	1.80	15.20	13.20	2.20	0.20	13.00	13.00
	助教	0.33	7.00	7.00	0.17	0.17	6.83	6.83
機械システム 工学専攻	教授	1.29	19.29	19.14	2.29	2.14	17.00	17.00
	准教授 (含講師)	0.20	13.90	8.80	5.90	2.80	8.00	6.00
	助教	0.00	11.50	7.50	6.00	2.00	5.50	5.50
電気電子工学 専攻	教授	1.86	22.71	22.71	2.00	2.00	20.71	20.71
	准教授 (含講師)	0.29	23.71	10.14	16.71	3.14	7.00	7.00
	助教	0.67	8.67	8.67	2.00	2.00	6.67	6.67
都市工学専攻	教授	0.60	24.40	15.90	10.60	3.80	13.70	12.10
	准教授 (含講師)	0.78	17.89	10.56	11.44	4.56	6.44	6.00
	助教	0.00	14.00	8.00	8.67	2.33	5.33	5.00
先端融合工学 専攻	教授	0.60	30.20	25.30	6.70	1.30	23.60	23.50
	准教授	0.50	14.63	14.63	2.00	1.60	15.63	15.63
	助教	0.00	11.33	11.33	1.67	2.70	9.33	9.33

【数理学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、かなり良好である。
- 准教授の研究活動は、概ね良好である。

【物理学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動はおおむね高い水準にある。
- 准教授の研究活動は特に高いアクティビティを示している。

【知能情報システム学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、非常に活発で、口頭発表より原著論文での研究成果公表を優先しており、原著論文は和文よりも英文で記述していることが読み取れる。
- 准教授の研究活動は、非常に活発で、教授と同等ないしは上回る成果を示している。また、和文での著作物は原著論文ではなく、国内学会予稿集、研究報告、総説等査読のないものがほとんどであった。
- 助教の研究活動は、残念ながら低調であり、今後の改善が必要である。

【循環物質化学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は非常に良好であり、5年間に1人平均 18.20 編の査読付き論文を報告している。
- 准教授の研究活動は非常に良好であり、5年間に1人平均 13.20 編の査読付き論文を報告している。
- 助教の研究活動は良好であり、5年間に1人平均 7.00 編の査読付き論文を報告している。

いずれの教員とも、論文のほとんどが査読付きの英文である。これは、化学という分野が他分野に比して特にグローバルであることの証である。また、昨年度と比較すると、教授と准教授は数編増加していることから、平成27年度の研究活動が活発であったことが窺える。

【機械システム工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授、准教授・講師、助教ともに概ね良好な研究活動が行われていると評価できる。

【電気電子工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は博士後期課程学生の博士号認定資格を維持している。論文総数の年平均が4.5編以上であり、すべてが査読付きの業績である。質の高い研究成果を創出し続けていることから非常に優れていると評価できる。

- 准教授の研究活動は博士前期課程学生の修士号認定資格を維持している。論文総数の年平均が4.7編以上であり、査読付きの業績が多いことから優れていると評価できる。
- 助教の研究活動は博士前期課程学生の指導資格をほぼ満たしている。論文総数の年平均が1.7編であり、全て審査付き論文であるとともに、大半が英語原著論文であることから優れていると評価できる。

【都市工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、昨年度と同様に、著書や査読付き論文で大きな成果を挙げている。ただし、論文数では個人差が大きく、指導する博士後期課程学生数が多い教員の査読付き論文数が多くなる傾向がある。
- 准教授・講師の研究活動は、和文の論文数で教授を上回っているが、英文論文数は教授の半数以下である。なお、論文数の個人差は教授と同様に大きい。
- 助教の研究活動は、論文総数は教授・准教授に比べ少ないが、英文原著の査読付き論文は准教授・講師に近い数値となっている。

【先端融合工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授は5年間で平均30.20件の査読付き論文を発表している。
- 准教授は5年間で平均14.63件の査読付き論文を発表している。
- 助教は5年間で平均11.33件の査読付き論文を発表している。

3.2.2. 共同研究などに関する活動実績

【数理学専攻】

- 統計数理研究所の公募型共同利用（教授）
- 他大学の研究者との共同研究（教授，准教授）

【物理学専攻】

- 九州大学との共同研究を発展させた。（教授）
- 佐賀大シンクロトロン，九州大学と共同研究を行った。（准教授）

【知能情報システム学専攻】

- 佐賀大学医学部との共同研究（教授，准教授）
- 佐賀大学教育学部との共同研究（准教授）
- 東京工業大学との共同研究（准教授）
- 神戸大学大学院工学研究科との共同研究（准教授）
- 熊本高専との共同研究（准教授）
- 国立研究機関（JAXA，環境研究所，気象研究所など）からの委託研究（教授）
- 長崎県からの委託研究（教授）
- 農林水産省委託プロジェクト研究（教授）

- 福岡県革新補助金事業（教授）
- 電気通信普及財団研究調査助成（准教授）
- 日本学術振興会（JSPS）二国間交流事業共同研究（准教授）
- 他研究機関との科研費関連のプロジェクト（教授，准教授）

【循環物質化学専攻】

- 科学研究費補助金に新規・継続合わせて6件が採択された（教授，准教授）
- 本学医学部と生体の基礎免疫に関与する白血球活性化因子開発の研究（教授）
- 山形大学（教授）
- 東京理科大学（教授）
- 千葉大学（教授）
- 理化学研究所，山口大学，広島大学（教授）
- 東京理科大学薬学部，筑波大学人間科学研究科（教授）
- 佐賀県立窯業高等学校（教授）
- 名古屋工業大学（教授）
- 東邦大学（教授，准教授）
- 豊橋技術科学大学（教授）
- 九州工業大学情報工学研究院（准教授）
- 産業技術総合研究所（教授，准教授）
- アメリカ・オクラホマ州立大学（教授）
- アメリカ・ミシガン州立大学（教授，准教授）
- オーストラリア・RMIT 大学（教授）
- University of Lille 1 (France)（教授，准教授，助教）
- カナダ・Wilfrid Laurier University（教授）
- インドネシア・ガジャマダ大学自然数理科学部（教授）
- ドイツ・ドレスデン工科大学科学部（教授）
- 韓国・大邱大学（准教授）
- 日産化学工業株式会社（教授）
- 田中貴金属工業株式会社（教授）
- 株式会社豊田中央研究所（准教授）

【機械システム工学専攻】

- 熱交換器の除霜能力向上に関する研究
- スマートフォン利用援用装置の開発
- 機械・化学産業分野の高温熱供給に適した冷媒とヒートポンプシステム技術開発
- 高効率ノンフロン型空調機器技術の開発
- 低 GWP・低燃焼性有機媒体の高精度熱輸送特性計測・分析
- 再生可能エネルギー熱利用技術開発/コストダウンを目的とした地中熱利用技術の開発/地中熱

- 特有な集合組織の多結晶マグネシウム合金のき裂先端特異応力場での破壊機構の解明
- 水素吸蔵合金容器における伝熱および水素吸蔵特性の解析
- 高効率ノンフロン型空調機器技術の開発
- 高剛性油の高圧物性測定評価研究
- 潤滑油の高圧物性に関する研究
- 液体の高圧物性に関する研究
- ボトリオコックス抽出オイルの潤滑油性能に関する研究

【電気電子工学専攻】

- 産業総合技術研究所との共同研究（教授）
- Lawrence Berkeley National Laboratory との共同研究（教授）
- 中国科学院蘭州化学物理研究所（教授）
- 静岡大学との共同研究（教授）
- 民間企業との共同研究（教授）

【都市工学専攻】

【共同研究】

- インフラモニタリングシステムの開発（教授）
- 災害マネジメントに活かす島しょのコミュニティレジリエンスの知の創出（准教授）

【国際共同研究】

- 都市の水資源管理に関するアジアの研究教育基盤モデルの構築（教授）
- 科研代表 7 件（教授，准教授）
- 科研分担 3 件（准教授）

【先端融合工学専攻】

- 学内共同研究（教授，准教授）
- 海外の大学との共同研究（教授，准教授）
- 国内他大学との共同研究（教授，准教授）
- 民間企業との共同研究（教授，准教授）
- 独立行政法人や公的研究機関との共同研究（教授）
- 企業からの委託研究（教授，准教授）
- 工学系研究科長経費によるプロジェクト研究（教授，准教授）
- 学長経費によるプロジェクト研究（教授）

3.2.3. 受賞等の実績

【知能情報システム学専攻】

- Information Technology Next Generation:ITNG Conference 2015 より Track Organizing Award（教授）
- ITヘルスケア学会より第9回年次学術大会優秀講演賞（教授）

- 日本知能情報ファジィ学会より論文賞（准教授）

【循環物質化学専攻】

- 溶液化学研究会奨励賞（准教授）

【機械システム工学専攻】

- 日本計算力学奨励賞
- International Tribology Conference Tokyo 2015 Poster Award for Young Tribologists

【電気電子工学専攻】

- 日本知能情報ファジィ学会貢献賞（准教授）
- MWE2015 大学展示コンテスト 奨励賞（研究室）

【都市工学専攻】

- 国際会議”IConCEES 2015”にて Best Paper Award を受賞（教授）

【先端融合工学専攻】

- 有機 π 電子学会学会賞（教授）

3.3. 国際・社会貢献の領域

3.3.1. 国際交流実績

【数理科学専攻】

- 国際研究集会の主催（准教授）
- 国際研究集会での講演（教授，准教授）
- 国外の研究者との共同研究（准教授）
- 国際学会での座長（教授）
- 海外の数学専門誌に論文が掲載された。（教授，准教授）

【物理学専攻】

- ホームページ（英文）による研究紹介（教授）

【知能情報システム学専攻】

- 工学系研究科国際パートナーシップ講師（教授）
- 短期，長期の留学生受け入れ（教授，准教授）

【循環物質化学専攻】

- 中国遼寧大学との国際パートナーシッププログラムの主催と講師（教授，准教授）
- 大邱大学とのジョイントセミナー講師（准教授）
- その他国際学会での招待講演や発表（教授，准教授）
- 外国語による HP の開設（教授，准教授，助教）

【機械システム工学専攻】

下記の内容で国際交流が進められた。

- 国際学会の Committee
- 国際会議開会の運営委員，実行委員など

- International Journal の Editor
- 海外からの研究者の受け入れ
- 留学生の受け入れ
- 国際会議における招待講演
- 国際会議における発表等
- 外国語によるHPの開設

【電気電子工学専攻】

- 英語によるホームページの開設・更新（教授，准教授）
- その他，国際会議などの参加に伴う国際交流があるがデータベースからは抽出されていない。

【都市工学専攻】

- 国際セミナー運営（教授，准教授）
- 交流協定締結に向けた訪問（教授，講師）

【先端融合工学専攻】

- 英語によるホームページ開設（教授，准教授）
- 工学系研究科の国際的交流事業に協力（准教授）
- 中国武漢大学との教育・学術交流（講義等）（教授）
- 韓国大邱大学校との教育・学術交流（講義等）（教授，准教授）
- 戦略的国際人材育成プログラムによる学生の受入（教授）

3.3.2. 社会貢献実績

【数理科学専攻】

- 論文誌査読委員（教授，准教授）
- 日本数学会での座長，研究集会の開催（教授，准教授）
- 高等学校数学教員との交流会（教授）
- ジョイントセミナー（佐賀北高校）講師（教授）
- 筑前高校で出前授業を行った。（准教授）
- オープンキャンパスにおいて，理工学部と数理科学科の紹介を行った。（教授）

【物理科学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授）
- 中学校の講演会の講師を務めた。（教授）
- 佐賀県高等学校理科部会で講演を行った。（教授）
- ジョイントセミナーの講師を務めた。（准教授）
- 筑波大学のアドバイザー委員を務めた。（教授）
- 九州大学のアドバイザー委員を務めた。（教授）
- 佐賀県教育センターで講義を行った。（教授）
- 致遠館 SSH の講師を務めた。（准教授）

- 全国 SSH 研究発表会の審査員を務めた。（教授）
- 佐賀県 SSH 運営指導委員会の委員を務めた。（教授）

【知能情報システム学専攻】

- 学会評議員（教授）
- 学会（含支部）役員（教授）
- 学会論文査読委員（教授，准教授）
- 協会等理事（教授）
- 佐賀県主催の協議会等の幹事，審議委員，運営委員など（教授）
- 国立情報学研究所の審議委員（教授）
- 九州経済連合会の審議委員（教授）
- 佐賀県警 サイバー犯罪捜査実践講師担当（准教授）
- ジョイントセミナー等高大連携講義や講演会（教授，准教授）

【循環物質化学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授，准教授）
- 繊維学会西部支部常任幹事（教授）
- 日本分光学会九州支部幹事（教授）
- 九州錯体化学懇談会運営委員会委員（教授）
- 日本化学会化学教育賞等選考委員会委員（教授）
- 日本分析化学会 XSAO 誌編集委員（教授）
- 化学工学会九州支部 第 18 回企業と大学・高専の人材育成懇談会委員（教授）
- 学会代議員（教授）
- 佐賀市エコプラザ運営委員会委員長（教授）
- 佐賀市内部環境監査（教授）
- 第 15 回 佐賀県理科・化学教育研究発表会講師（教授）
- 第 18 回連携大学院産学官交流セミナー講師（准教授）
- 第二回 KTC 大学合同 新技術説明会・技術相談会（准教授）
- 文部科学省科学技術政策研究所専門調査員（准教授）
- 佐賀県高等学校教育研究会理科部会大会講師（教授）
- 佐賀県立佐賀西高等学校学校評議員（教授）
- 佐賀県立致遠館中学校・高等学校学校評議員（教授）
- 佐賀県高文連自然科学専門部会研修会指導者（教授）
- 平成 27 年度佐賀大学公開講座「身近な化学物質と健康」講師（教授）
- 化学工学講座出張講演会講師（教授）
- ものづくり技術者育成講座講師（教授，准教授）
- SSH 高大接続交流会講師（准教授）
- ジョイントセミナー講師（教授，准教授）
- 高大連携プログラム「科学者へのとびら」指導者（教授）

- 佐賀大学AP研究所のポスター発表会指導者（准教授）
- 佐賀科学少年団役員（准教授）

【機械システム工学専攻】

- 学会理事
- 学会常務理事
- 学会評議員
- 学会校閲委員，編集委員，運営委員
- 学会九州支部理事，評議員，商議員，常議員など
- 研究会会長，幹事など
- 学会開催の実行委員，運営委員など
- ジョイントセミナー
- スーパーサイエンスハイスクールの講師
- 佐賀大学ものづくり技術者講座育成講座
- オープンラボ
- 地域企業からの技術相談

【電気電子工学専攻】

- 電子情報通信学会電磁環境工学研究専門委員会 委員（准教授）
- 電子情報通信学会九州支部学生会 顧問（准教授）
- 電子情報通信学会マイクロ波研究会専門委員会 委員（講師）
- 映像情報メディア学会放送技術研究会 専門委員（講師）
- 学会論文査読委員（講師）
- 学会論文誌編集委員（講師）
- 2017 International Conference on Computational Electromagnetics (ICCEM2017) 運営委員（講師）
- ComManTel2015 TPC 委員（教授）
- ATC 2015 TPC 委員（教授）
- ICCEM2017 展示委員長（教授）
- 平成27年度佐賀県科学的思考力育成プログラム「科学者へのとびら」講師（准教授）
- 致遠館中学校・高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業（教授）
- ジョイントセミナー講師（教授）
- 佐賀工業高校 学校評議員（教授）
- ものづくり技術者教育講座（准教授）
- 企業の課題と状況に関する相談（教授）
- MWE2015 大学展示（教授）
- 六角小学校による見学会（教授）

【都市工学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授，講師）

- 学会論文誌編集委員（教授）
- 学協会，研究会の委員（教授，准教授，講師）
- 国，自治体県主催の各種審議会，委員会等の委員長，委員など（教授，准教授）
- ジョイントセミナー（教授，准教授）
- 学会開催の実行委員，運営委員など（教授，准教授）
- 公開セミナー等での講師（教授）
- 科目等履修生の受入（教授）
- 研究・技術指導（教授）

【先端融合工学専攻】

- 学研究会の会長，役員，運営委員，幹事，委員など（教授，准教授，助教）
- 学会論文誌編集委員（教授，准教授）
- 学会論文査読委員（教授，准教授）
- 科学研究費補助金審査員（教授）
- 佐賀県の審議会等の委員（教授）
- 地域企業からの技術相談（教授，准教授）
- 工業教育活性化セミナー講師（教授）
- ものづくり技術者養成講座（准教授）
- スーパーサイエンスハイスクール事業講師（教授）
- 高専の非常勤講師（准教授）

3.4. 組織運営の領域

【数理学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 全学各種委員の担当（教授）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（教授，准教授）

【物理科学専攻】

- 研究科長補佐や工学系研究科各種委員の担当（教授，准教授）
- 学科内の各種委員の担当（教授，准教授）

など，学内及び研究科等の運営において重要な役割を果たしている。

【知能情報システム学専攻】

- 全学委員の担当（教授，准教授）
- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 他部局やセンターの運営委員，併任教員（教授，准教授）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 学科独自の就学支援システムの開発，改良，運用（教授）

【循環物質化学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）

- ・ アドミッションセンター長（教授）
- ・ 教養教育運営機構副機構長（教授）
- ・ 全学教育機構副機構長・高等教育開発室長（教授）
- ・ 大学教育委員会副委員長（教授）
- ・ 大学教育委員会企画・評価専門委員会委員長（教授）
- ・ 知財戦略・技術移転部門長（教授）
- ・ 工学系研究科副研究科長（教授）
- ・ 工学系研究科連携大学院運営委員会委員長（教授）
- ・ 工学系研究科学生委員長（教授）
- ・ 工学系研究科安全委員会委員長（教授）
- ・ 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（教授，准教授，助教）

など，全学センター長，各種全学委員会委員長や工学系研究科委員会委員長として，組織運営に大きく貢献している。

【機械システム工学専攻】

- ・ 工学系研究科・理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 各種全学委員会委員
- ・ 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- ・ 後援会協賛のOB懇談会開催

【電気電子工学専攻】

- ・ 全学委員会等委員（教授，准教授）
- ・ 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- ・ 専攻・学科関連各種委員（全教員）
- ・ 省エネ・省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

【都市工学専攻】

- ・ 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- ・ 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（准教授，助教）

【先端融合工学専攻】

- ・ 学研究会の会長，役員，運営委員，幹事，委員など（教授，准教授，助教）
- ・ 学会論文誌編集委員（教授，准教授）
- ・ 学会論文査読委員（教授，准教授）
- ・ 科学研究費補助金審査員（教授）
- ・ 佐賀県の審議会等の委員（教授）
- ・ 地域企業からの技術相談（教授，准教授）
- ・ 工業教育活性化セミナー講師（教授）
- ・ ものづくり技術者養成講座（准教授）
- ・ スーパーサイエンスハイスクール事業講師（教授）
- ・ 高専の非常勤講師（准教授）

4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの専攻の教授、准教授、講師、助教について整理したものが下記の表 4.1 である。

表 4.1 教員自身による自己点検評価（評価点ならびに達成率）

専攻	職種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会貢献の領域		組織運営の領域		総合評価
		評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	
数理科学専攻	教授	3-4	70-85	3-5	65-90	3-4	60-80	3-5	70-95	3-4
	准教授 (含講師)	3-4	70-90	2-4	40-80	1-4	0-80	3-5	60-100	3-4
物理科学専攻	教授	3-4	70-90	2-4	50-90	3-5	60-90	3-3	60-90	3-3
	准教授	3-4	70-80	3-4	60-80	3-3	60-80	3-4	60-80	3-4
知能情報 システム学 専攻	教授	4-5	80-100	4-5	80-100	3-5	65-100	4-5	80-100	4-5
	准教授 (含講師)	3-5	80-100	4-5	80-100	3-5	75-100	3-5	60-100	3-5
	助教	3-4	80-90	3-3	50-50	3-3	10-50	3-4	80-90	3-3
循環物質化学 専攻	教授	3-5	60-100	2-5	60-100	3-5	70-100	3-5	80-100	3-5
	准教授	3-5	95-100	3-5	60-95	4-5	90-100	2-5	90-100	4-5
	助教	2-4	50-90	2-5	50-100	2-4	30-90	2-5	30-100	2-4
機械システム 工学専攻	教授	4-5	80-100	4-5	80-100	4-5	80-100	4-5	80-100	4-5
	准教授 (含講師)	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5
	助教	3-4	70-100	3-4	70-100	3-4	70-100	3-4	80-100	3-4
電気電子工学 専攻	教授	3-5	60-100	3-5	60-100	3-5	70-98	4-5	80-100	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	70-90	2-4	60-80	3-4	70-90	3-5	70-92	3-4
	助教	4-4	80-80	4-4	80-90	4-4	70-90	4-4	70-80	4-4
都市工学専攻	教授	3-5	60-100	3-5	70-100	2-5	50-100	3-5	70-100	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	80-90	3-5	60-100	2-5	60-100	3-5	65-100	3-5
	助教	3-4	60-80	2-5	40-100	3-4	50-80	3-3	60-80	2-3
先端融合工学 専攻	教授	3-5	60-100	2-5	40-100	3-5	50-100	1-5	10-100	2-5
	准教授	3-5	60-95	2-5	50-95	3-5	70-95	2-5	50-100	2-5
	助教	4-5	70-100	4-5	70-100	3-4	50-80	3-5	60-100	3-4

表中、例えば、評価点(3-4)は（最小値 3-最大値 4）であったことを表す。

【数理科学専攻】

この表から、各教員は公正な自己評価を行っていると思われる。

【物理科学専攻】

この表から、各教員は概ね適切な自己評価を行っていると思われる。

【知能情報システム学専攻】

この表から、各教員は客観的かつ適切な自己評価を行っていると思われる。

【循環物質化学専攻】

この表から、達成率は実績を反映していると考えられる。しかし、評価点は、統一的な基準がなく、教員毎の基準で判断されるために、過大、過小が入り交じっていると考えられる。大まかには、厳しい評価が教授や助教に散見され、准教授はその逆である。これは、立場の違いを反映しているように思われる。ともかく、自己評価は教員自身のためであり、他者がそれをさらに評価することは無意味であろう。

【機械システム工学専攻】

この表から、ほとんどの教員においてはそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われる。一方で、一部の教員については本学および本学部の目標達成に向けた活動という観点から判断して自己総合評価が若干低いように思われる。実際より控えめの自己評価を行っているとも推察できるが、より高い達成率・総合評価を目指すよう努めたい。

【電気電子工学専攻】

この表から、各教員は概ね良好な自己評価を行っていると思われるが、自己評価の方法にばらつきがある。

【都市工学専攻】

この表から、各教員は厳格な自己評価を行っていると思われる。

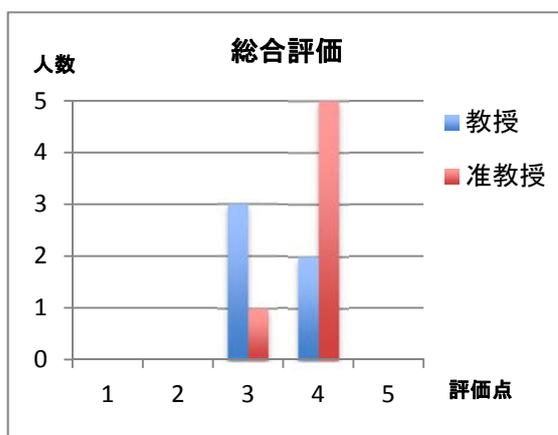
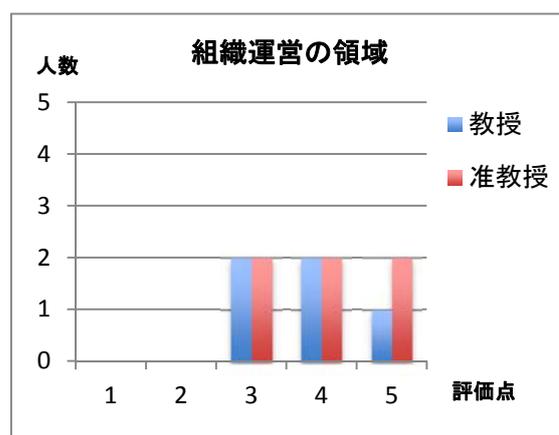
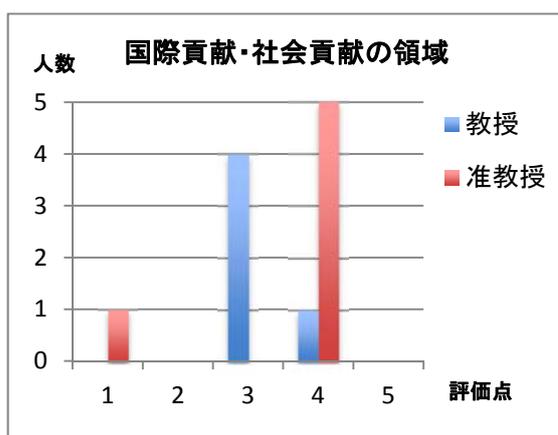
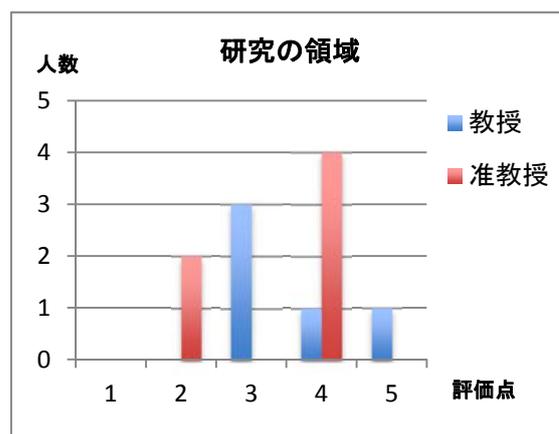
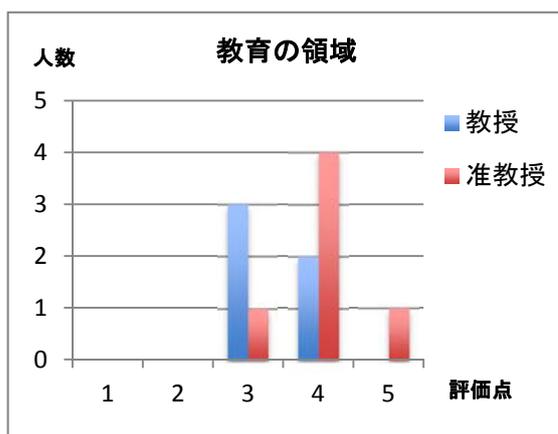
【先端融合工学専攻】

各領域の評価点は2・5の範囲にわたり、各教員は概ね適切な自己評価を行っていると思われる。また、総合評価の評価点の平均値は3.9、CVは1.0であり、各自の設定した目標は概ね良好に達成されていると判断した。総合評価の評点が、教授>准教授>助教の順となっているが、准教授、助教において高い目標を掲げているにもかかわらず、自己評価が低めになっていることが原因と解釈できる。

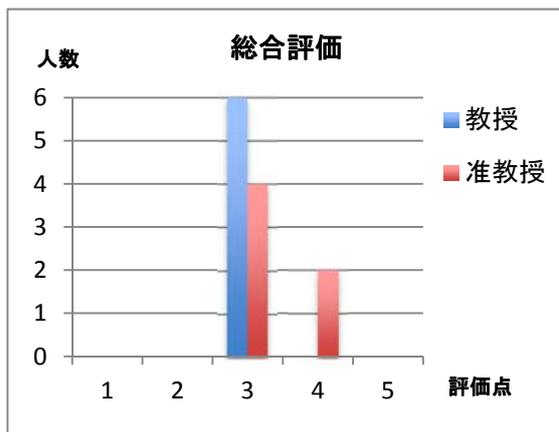
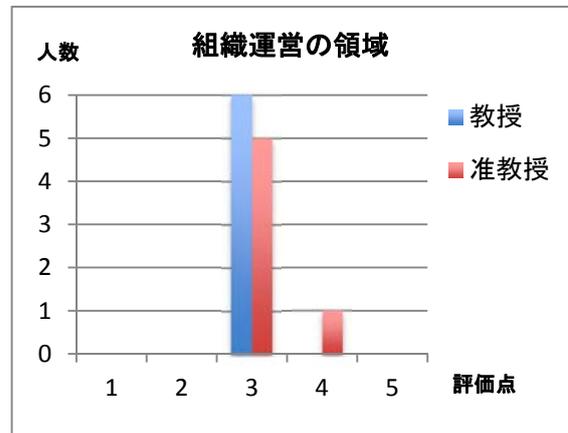
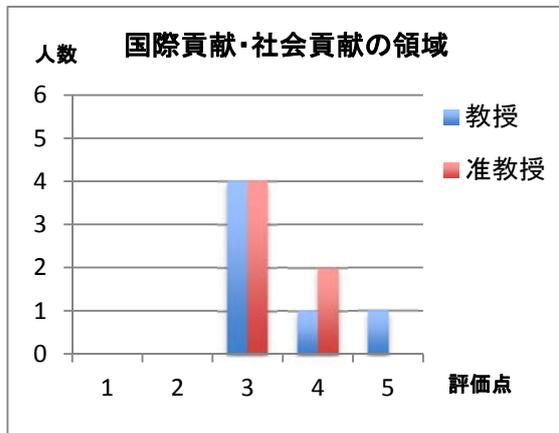
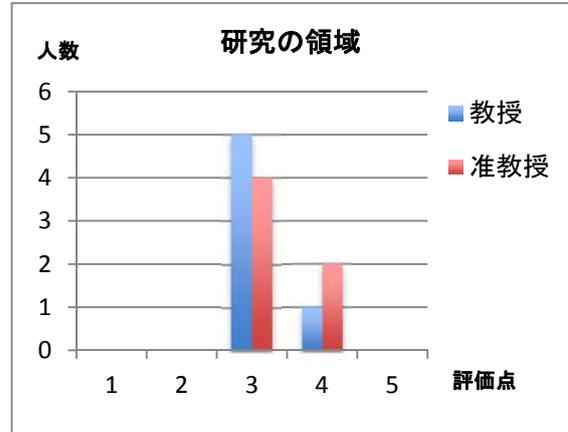
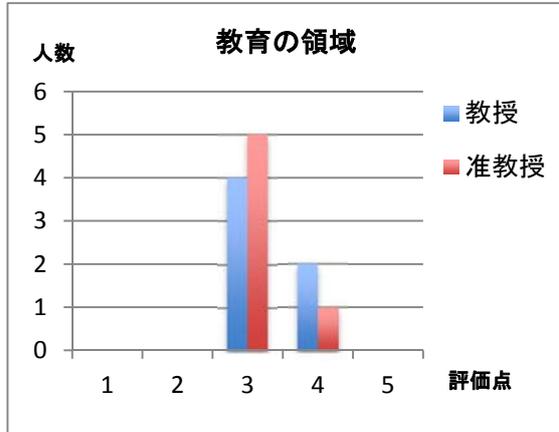
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

以下のとおり専攻毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示す。「准教授」は准教授と講師の合計を表す。

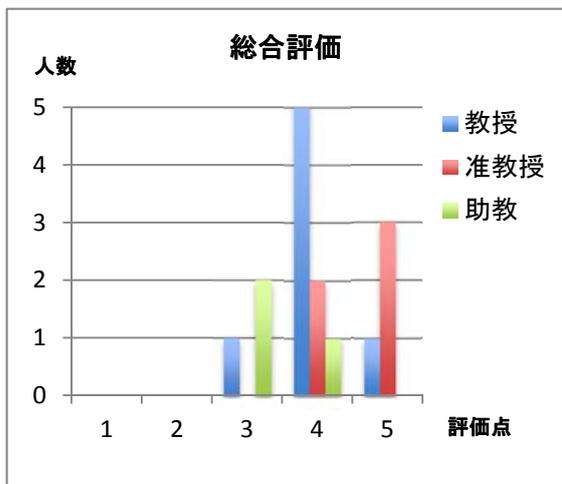
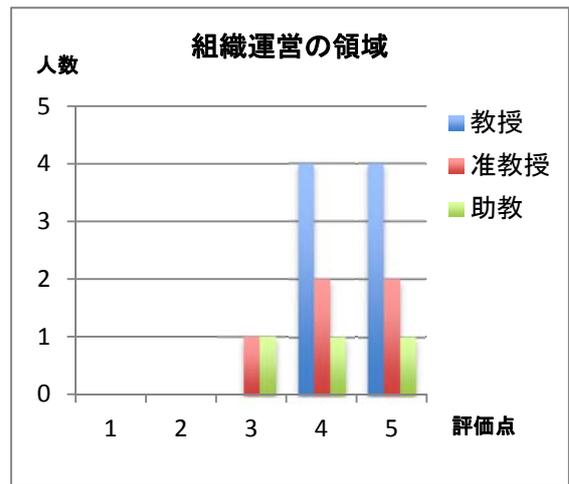
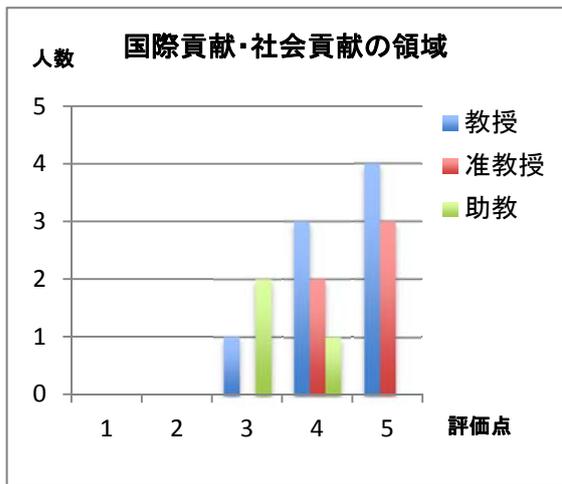
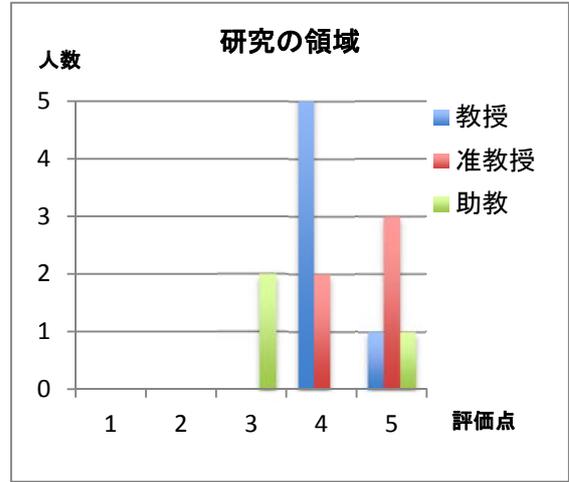
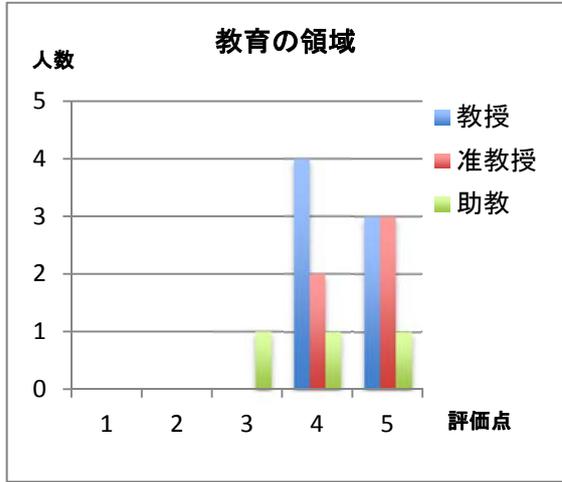
【数理学専攻】



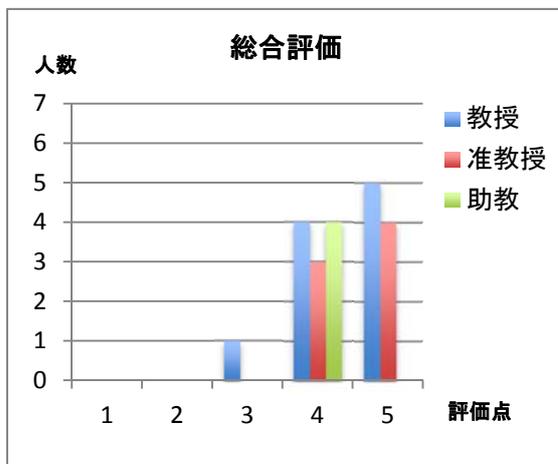
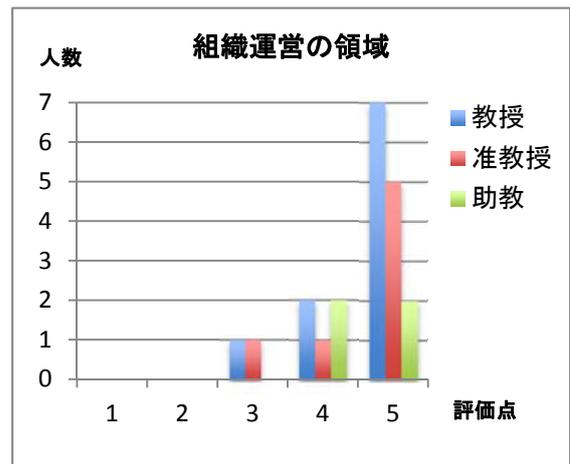
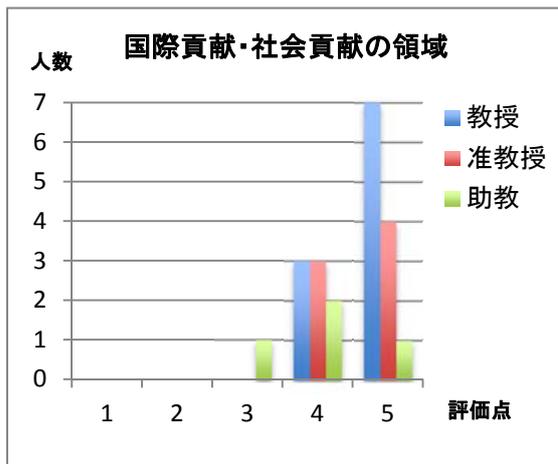
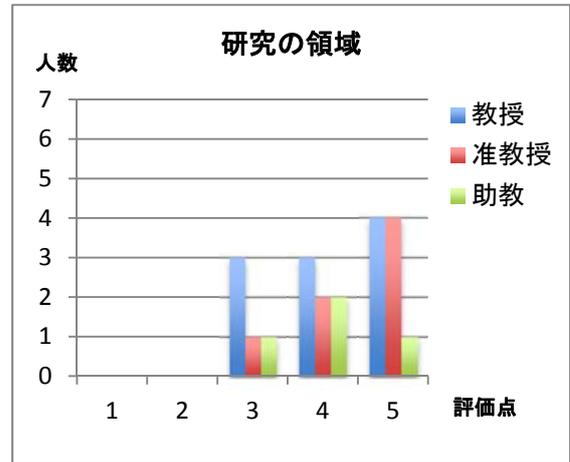
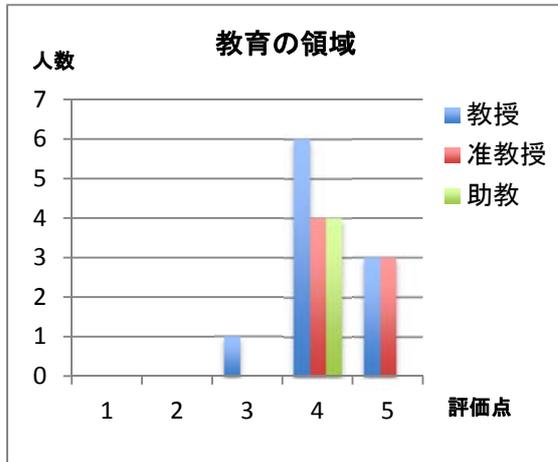
【物理科学専攻】



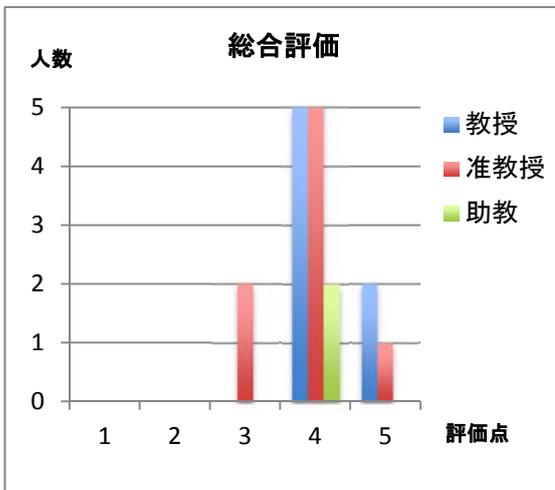
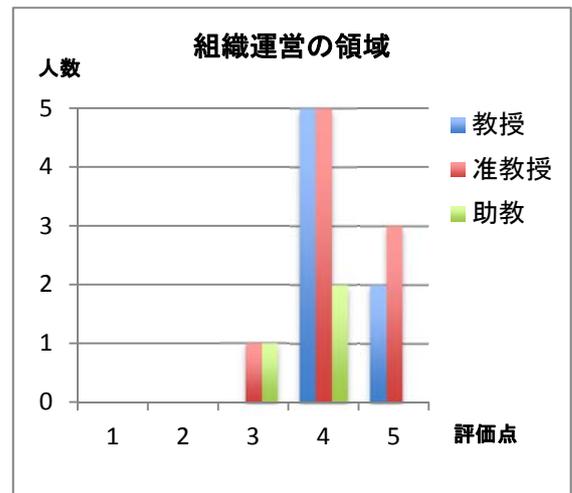
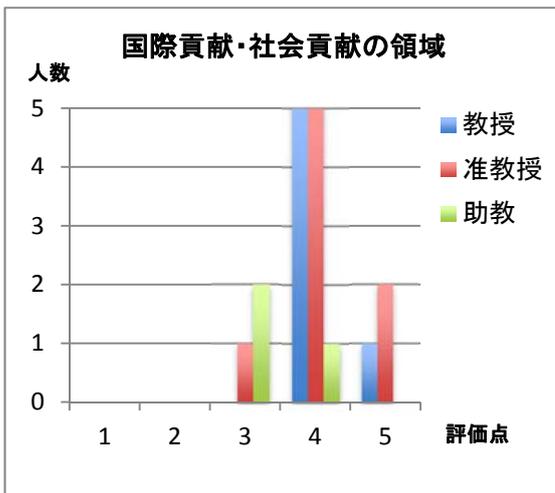
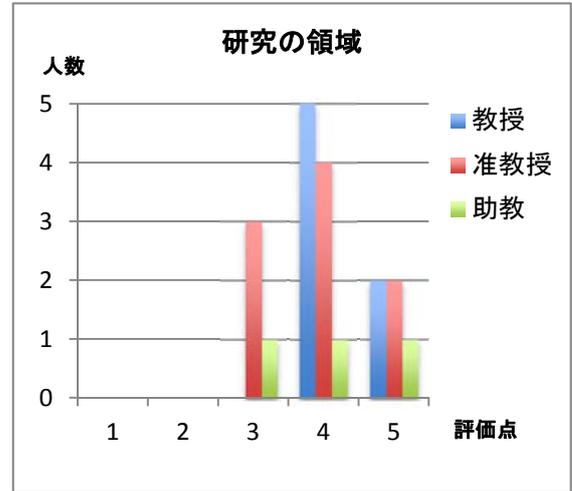
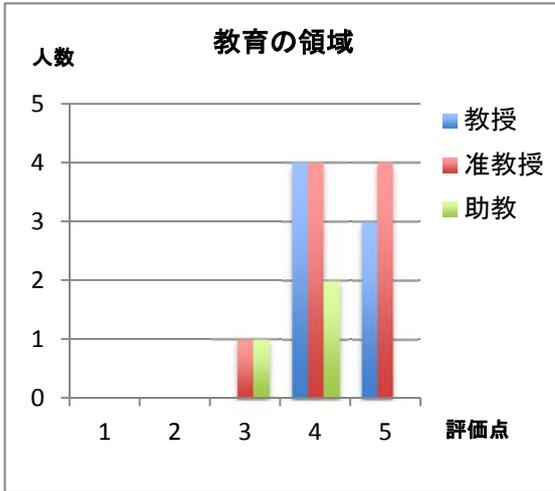
【知能情報システム学専攻】



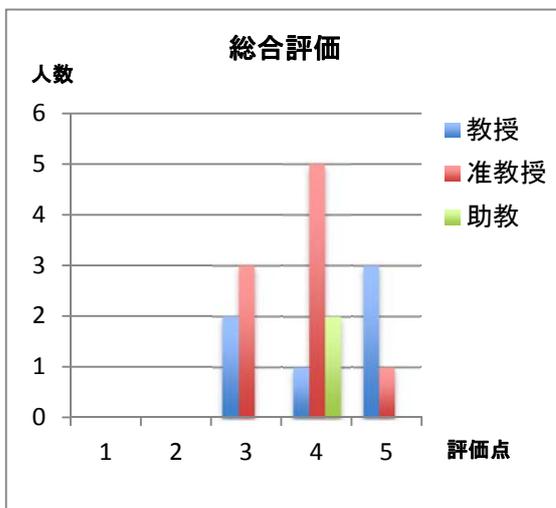
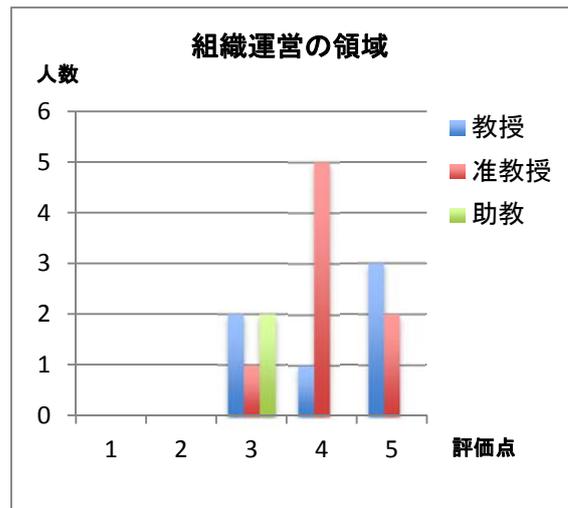
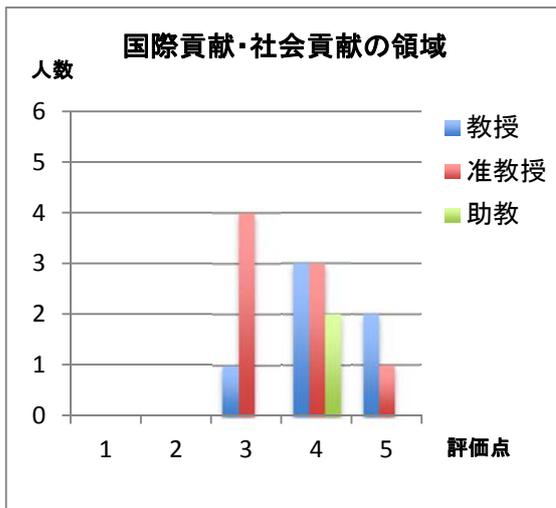
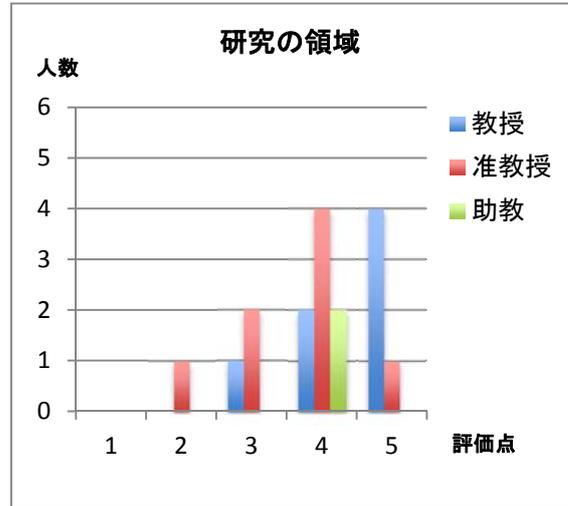
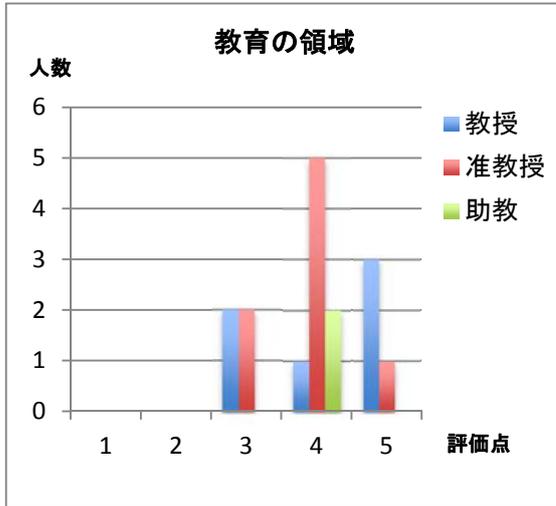
【循環物質化学専攻】



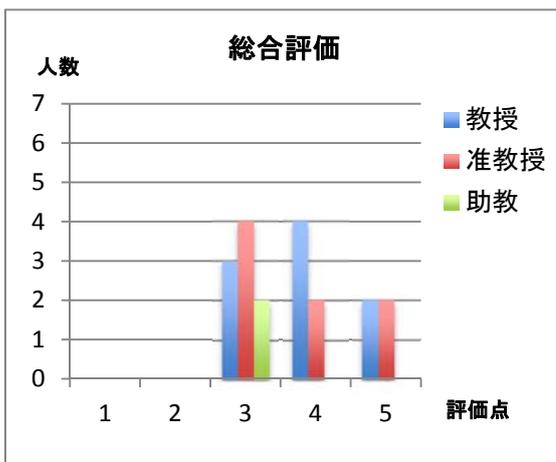
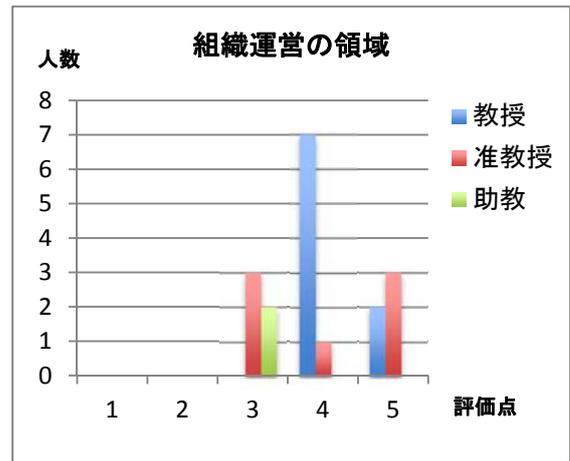
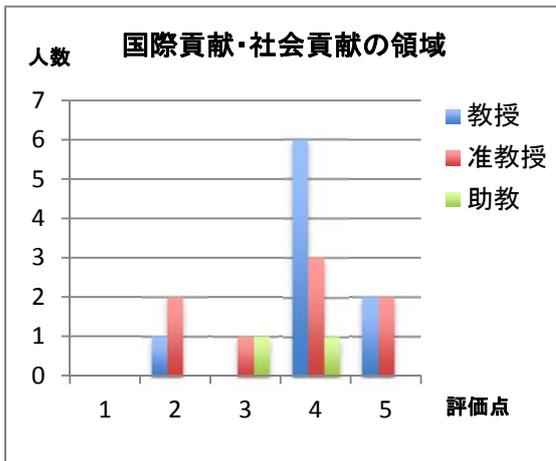
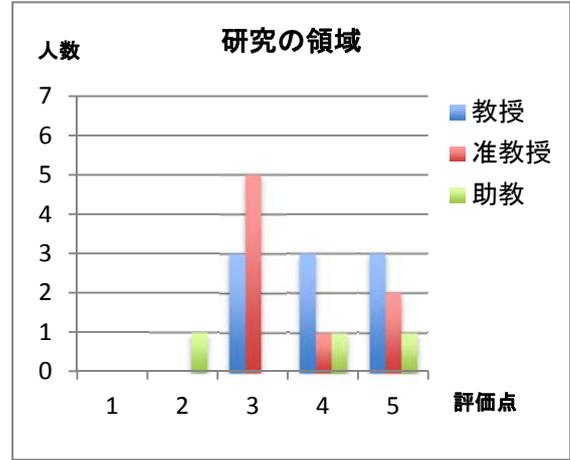
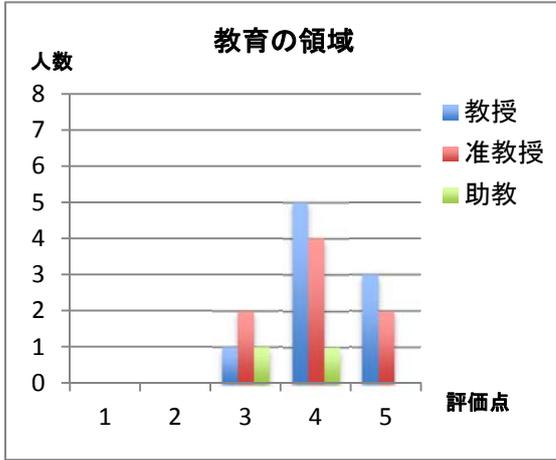
【機械システム工学専攻】



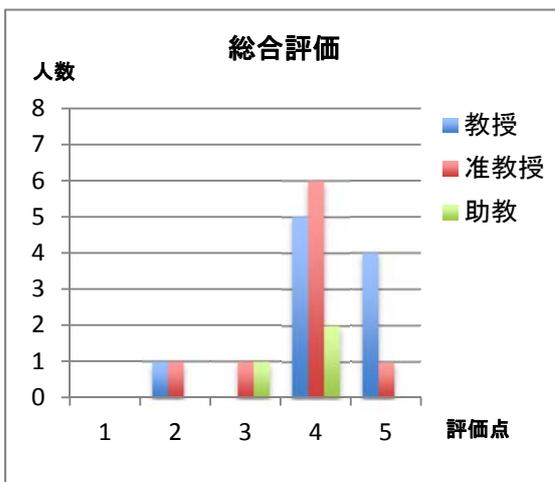
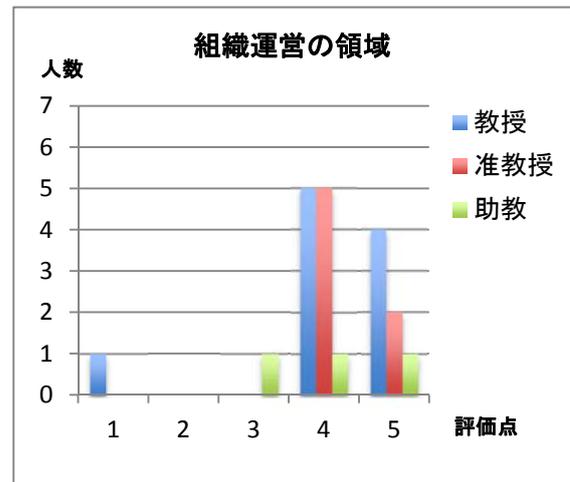
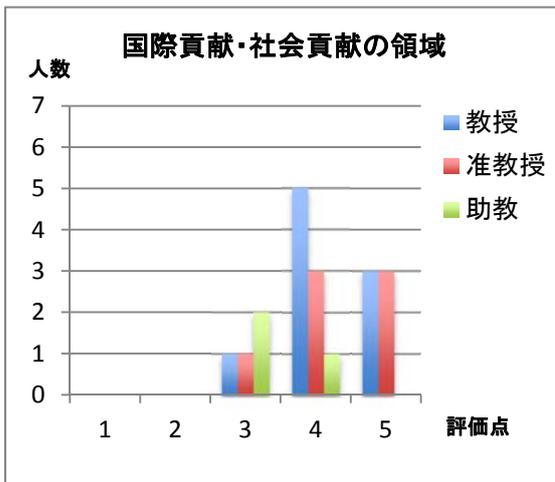
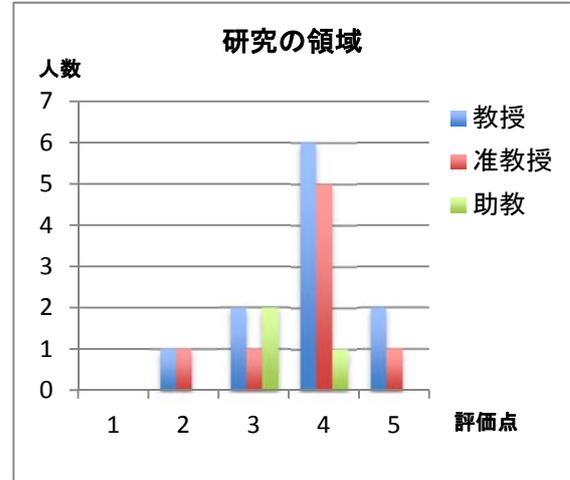
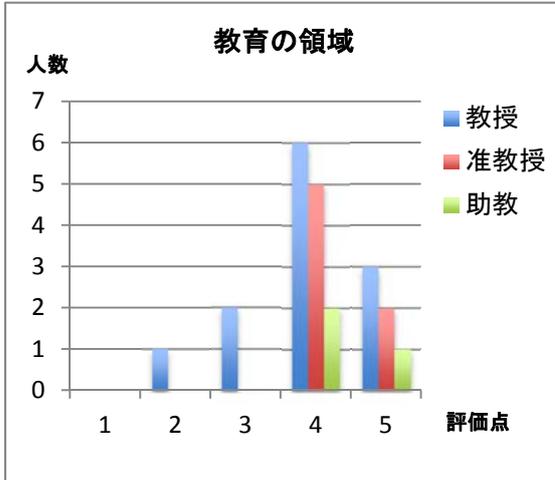
【電気電子工学専攻】



【都市工学専攻】



【先端融合工学専攻】



4.3. 評価委員からのコメント

各専攻の評価委員からのコメントを以下にまとめる。

【数理学専攻】

1. 各教員が真摯に研究及び教育活動を行い、高い科研費採択率や入試問題作成などにおいて、本学・本研究科に貢献している。自己評価はおおむね妥当である。
2. 過去の年度と比較して、ラーニングポートフォリオの活用による学生の指導やアクチュアリー関係の講義の工夫など、就職支援を意識した試みの新たな展開がみられる。

【物理学専攻】

1. 教員は、それぞれが工夫して教育改善に取り組んでいる。また、自宅学習のための課題を用意するなど、学習時間を増やす努力が行われている。教養教育など全学的な教育にも大きな貢献をしている教員がいる。
2. 研究活動については、概ね高いアクティビティを維持していると思われる。学生（院生）による学会発表なども定着してきており、研究の高いアクティビティが教育の活性化にもつながっている。若い准教授層の教育負担を減らすなどの研究支援を行っている。
3. 社会貢献や国際交流の活動も継続されている。また専門性を活かしてSSH事業、サイエンスカフェなどのアウトリーチ活動にも貢献している。
4. 組織運営については、一部の教員が大学や学部など運営に重要な役割を果たしている。専攻は、重い運営業務を担っている教員の専攻内の負担を減らすなどの支援を行っている。
5. 健康上の理由で十分な活動ができなかった教員については、専攻内の支援もあり、徐々に復帰しつつある。

【知能情報システム学専攻】

1. 教育の領域においては、全教員が積極的に貢献しており、学科（専攻）教育改善委員会を中心に、継続的改善が図られている。また、近年の教授4名の定年退職に伴う教育負担のアンバランスも、着実に解消されつつある。
2. 研究の領域では、教授、准教授とも非常に活発である一方、助教の研究に対する貢献が非常に低い。これは、次年度に向けて積極的に改善していかねばならない点である。
3. 国際貢献の領域では、留学生の受け入れや、国際パートナーシッププログラム実施など、積極的に活動に取り組んでいるが、この領域での貢献は一部の教員に大きな負荷がかかっている。
4. 社会貢献の領域では、教授、准教授とも学会活動のほか、佐賀県その他の審議会委員、各種協議会運営委員等、非常に積極的に貢献を行っている。

5. 組織貢献の領域では、全教員が、全学委員会委員、工学系研究科各委員会委員、他部局やセンターの運営委員、併任教員等として、組織運営に積極的に貢献している。

【循環物質化学専攻】

1. 学部教育においては JABEE 認定プログラムを継続し、質の高い教育を行っている。機能材料化学コースでは、JABEE 認定の継続審査における 6 年認定を受けた実績を維持しており、物質化学コースにおいても材料化学コース同等の教育体制を構築して差異のない充実した教育体制を整えている。また、各教員の授業改善に対する意欲も旺盛である。大学院教育においては、博士前期課程のみならず、博士後期課程においても多くの学生を指導しており、着実な教育・研究成果を上げている。博士課程の学生に対する研究を通じた教育の成果は学会での受賞や学生自身の執筆による論文発表などに反映されている。
2. 研究においては、多くの教員が主に査読付きの英文誌に論文発表をしており、発表論文の中には IF 値が極めて高い雑誌への発表も含まれており、質の高い研究が行われている。また、多くの教員が学科、研究科、学部、大学間で連携して共同研究を行い、学長経費や研究科長経費、連携大学院共同研究費を獲得している。さらに、県、民間企業と共同研究や受託研究を行い、外部資金を獲得して成果を上げており、専攻として優れた研究分野での貢献をしていると評価できる。
3. 国際貢献については、多くの研究者が国際学会への参加・発表を行う中で海外の研究者との研究交流を活発に行っている。また、研究科の支援による国際パートナーシッププログラムにも積極的に専攻として貢献している。地域貢献については、地域の研究アドバイザーとして講師を務める教員や、佐賀県や九州地区の理科教育への協力、佐賀地域の理科・科学振興のための事業への参画など、多くの教員が地域貢献に尽力している。社会貢献としては、学会の主要な委員を務める、非営利団体と連携するなどして、学会活動等にも努めている。このように、国際・地域・社会貢献にバランス良く活躍しており、優れた貢献をしていると評価できる。
4. 組織運営については、全学、研究科、専攻において本専攻教員は幅広く組織運営の責務を果たして活躍しており、また重責を担う役職任務を多くの教員が遂行しており、貢献度は本学の中でも極めて高いと評価できる。また、当専攻はその学問的基盤によりエコアクション 21 や薬品管理システム等の安全管理にも学内で先導的活動を行っている。

【機械システム工学専攻】

1. 機械システム工学科の教育プログラムは日本技術者教育認定機構の JABEE 認定を受けている。この認定プログラムは継続的な点検・改善を必要とし、定期的に日本技術者認定機構による審査が行われる。平成 22 年 10 月に継続審査、平成 25 年 10 月に中間審査が完了し、さらに平成 28 年 10 月には継続審査の現地審査を受審する予定であ

る。この認定を受けていることは、当学科で質の高い教育が保証・維持されていることを表し、教員の日々の創意工夫により導かれた結果といえる。また、個々の講義に関しては、定年退職や定員削減などで教員一人当たりの担当科目数が増える中、各教員が学科の目標に沿って学生を育成しようとする努力が見られる。

2. 大学院教育に関しては、講義での専門知識の修得に加えて、丁寧な研究指導による学生の能力の向上が図られている。また、英語による教育にも力が入れている。大学院学生の国内外の学会での発表も多く行われている。
3. 研究の面では、教員の国内外の学会などでの論文発表が活発に実行されている。研究費については、科学研究費補助金のみならず、企業との共同研究、奨学寄付金、財団からの研究助成などの受け入れ、NEDOなどのプロジェクト研究についても積極的に取り組まれている。これらの実績から、機械システム工学専攻の研究に対し民間企業等が強い期待を持っていることが分かる。
4. 社会貢献・国際交流では、学会等の役員および委員会委員として活動し、また講演会、研究会なども精力的に開催している。さらに、外国人研究者の受け入れや、国際会議においての情報交換も積極的に行なわれている。
5. 上記(1)～(4)と自己評価結果を勘案して、全ての教員は各自の活動の自己評価を適切に行なっていると判断する。

【電気電子工学専攻】

1. 各教員の努力により、教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営の各領域で良好な成果があがっているが、個々の活動については実際に活動しているにまお関わらず、評価基礎情報データベースに入力されていない、あるいは、入力されているにも関わらず抽出されていない事項があるのは非常に残念である。
2. 目標設定にあたっては、定量的に評価可能な目標の設定が望まれ、さらにチャレンジングな目標設定により大きな成果があがることを期待する。また、自己評価にあたっては過小評価することなく自信を持って業務に取り組んでいただきたい。
3. 組織運営にあたっては、担当任務を着実に遂行するのはもちろんのこと、各人の創意工夫による提案ベースでの参画を期待する。

【都市工学専攻】

1. 教育について
 - 小テスト、質問票、TA を用いた演習など積極的に行っており、学生の授業理解度を高める授業の工夫がなされている。さらに学生の授業評価に基づき授業の改善が図られている。
 - 授業の担当コマ数には教員間にバラツキがみられる。教育効果を高めるために教育負担をある程度は平準化するようにすることが肝要である。
 - カリキュラムの改善や授業方法についての課題は、教授から助教までが参加する教

育システム委員会で議論されており、各教員の授業改善に反映されている。

2. 研究について

- 研究分野の特徴によるが、教員間で論文数にバラツキがみられる。論文数の少ない教員は積極的な研究活動が望まれる。なお、多くの教員は博士前期課程あるいは後期課程の指導資格を維持できている。

3. 地域・国際貢献について

- 多くの教員が国や県の委員会や審議会などの委員として地域に貢献している。
- 多くの教員が国際セミナー、外国からの教員・大学院生の受入、国際的共同研究などにより国際貢献を行っている。

【先端融合工学専攻】

1. 教育に関しては、評価点や達成率も高い。これは、教員各自の高い意欲の結果だけではなく、授業点検および授業点検報告の実施およびそれらに基づいた授業改善が機能していることを意味する。また、FD 講演会や TP ワークショップへの積極的参加から、さらなる教育改善に対する意欲と努力がうかがわれる。
2. 研究に関しては、各教員が多くの研究成果を出している他に、指導学生の国内学会、国際学会での発表も順調に増えている。助教においては、査読付き論文中、和文論文の割合が教授・准教授に比べてやや高い。今後、研究成果を積極的に英文論文として発表することが期待される。研究資金獲得については、科研費が中心であるが外部資金獲得への努力も見られる。科研費は一部基盤 B があるが基盤 C がほとんどであり、研究費確保の面からも大型外部資金の獲得へ向けた努力と体制構築が引き続き今後の課題である。
3. 社会貢献・国際交流に関しては、多くの学会や地域の協議会・審議会の役員等を務めている。評価点や達成率の平均値も高めであり、社会貢献や国際交流に対する理解と努力が感じられる。特に学会大会の主催や、学術交流協定を結んでいる海外の大学との活発な交流が目についた。
4. 組織運営については、全教員の積極的な関与が見られ、各教員の評価点や達成率も高い。
5. 個人評価は、各自達成目標を異にするため成果の評点を単純に比較することは不可能であるが、設定された目標のレベルのばらつきは大きくなく、教員はおおむね各自の活動に適切なレベルの目標を設定し、自己評価を適切に行っていると判断する。

平成 28 年度工学系研究科評価委員会委員

委員長	石橋孝治	(研究科長)
委員	萩原世也	(副研究科長・評議員)
委員	花本猛士	(副研究科長)
委員	服部信祐	(副研究科長)
委員	船久保公一	(研究科長指名委員)
委員	後藤聡	(研究科長指名委員)
委員	帯屋洋之	(教務委員会委員長)
委員	梶木屋龍治	(数理科学専攻長)
委員	青木一	(物理科学専攻長)
委員	奥村浩	(知能情報システム学専攻長)
委員	大石祐司	(循環物質化学専攻長)
委員	佐藤和也	(機械システム工学専攻長)
委員	豊田一彦	(電気電子工学専攻長)
委員	伊藤幸広	(都市工学専攻長)
委員	上野直弘	(先端融合工学専攻長)
委員	淵上道晴	(工学系研究科事務長)